

**協会けんぽの取り組み等に対する加入者の意識調査  
報告書**

**平成 26 年 9 月**

**全国健康保険協会**

# 協会けんぽの取り組み等に対する加入者の意識調査

## =目次=

1	調査概要	1
1. 1	調査の目的	1
1. 2	調査設計	1
1. 3	調査手法	1
1. 4	調査実施時期	1
1. 5	調査内容	1
1. 6	回答者基本属性	2
1. 7	その他	3
2	調査結果のまとめ	4
3	調査結果詳細	9
3. 1	医療機関・薬局の利用状況	9
3. 1. 1	医療機関の受診・薬局での調剤利用状況（今年1月～6月）（問1）	9
3. 1. 2	今年4月以降の医療費の負担感の変化（問2）	12
3. 2	協会けんぽの取り組みに対する認知と評価	16
3. 2. 1	協会けんぽの取り組みの認知（問4）	16
3. 2. 2	ジェネリック医薬品の認知と使用経験（問5）	19
3. 2. 3	ジェネリック医薬品を知ったきっかけ（問6）	21
3. 2. 4	「ジェネリック医薬品の使用促進」に対する評価（問7）	23
3. 2. 5	今後のジェネリック医薬品の利用意向（問8）	25
3. 2. 6	生活習慣病予防・健康維持のための取り組み（問9）	26
3. 2. 7	生活習慣病予防・健康維持のための取り組みを始めたきっかけ（問10）	27
3. 2. 8	「生活習慣病の重症化予防」に対する評価（問12）	29
3. 2. 9	生活習慣病に関する受診勧奨通知を受けた場合の医療機関受診意向（問13）	32
3. 2. 10	「レセプト点検の徹底」に対する評価（問11）	36
3. 2. 11	「扶養家族の再確認」に対する評価（問14）	39
3. 3	保険料負担についての考え方	41
3. 3. 1	協会けんぽの保険料率負担が増加していることに対する意見（問15）	41
3. 3. 2	加入している健康保険によって保険料率が異なることの認知（問16）	45
3. 3. 3	保険料率の格差に対する考え（問17）	47
3. 4	医療費負担のあり方	49
3. 4. 1	医療費の伸びを抑えるために必要な取り組み（問18）	49
3. 4. 2	国民の負担が増える場合の医療費のまかない方（問19）	53
	資料編《調査票》	57

## 1 調査概要

### 1. 1 調査の目的

加入者の医療や協会けんぽの取り組みに対する意識等を把握し、保険者機能の発揮のための企画立案に資する基礎資料とする。

### 1. 2 調査設計

調査対象者 : 委託先である株式会社インテージリサーチの「インテージ・ネットモニター」のうち協会けんぽ加入者（事前調査により把握）

対象者条件 : 20歳から74歳男女。年代、性別、地域、被保険者・被扶養者の分布に偏りがないう、加入者の構成比に準じてサンプル設計。

対象者数 : 有効回収数 2,088 サンプル  
調査依頼数 2,941 サンプル（有効回収率 71.0%）

### 1. 3 調査手法 インターネット調査

### 1. 4 調査実施時期 平成26年7月3日～7日（事前調査実施6月26日～30日）

### 1. 5 調査内容

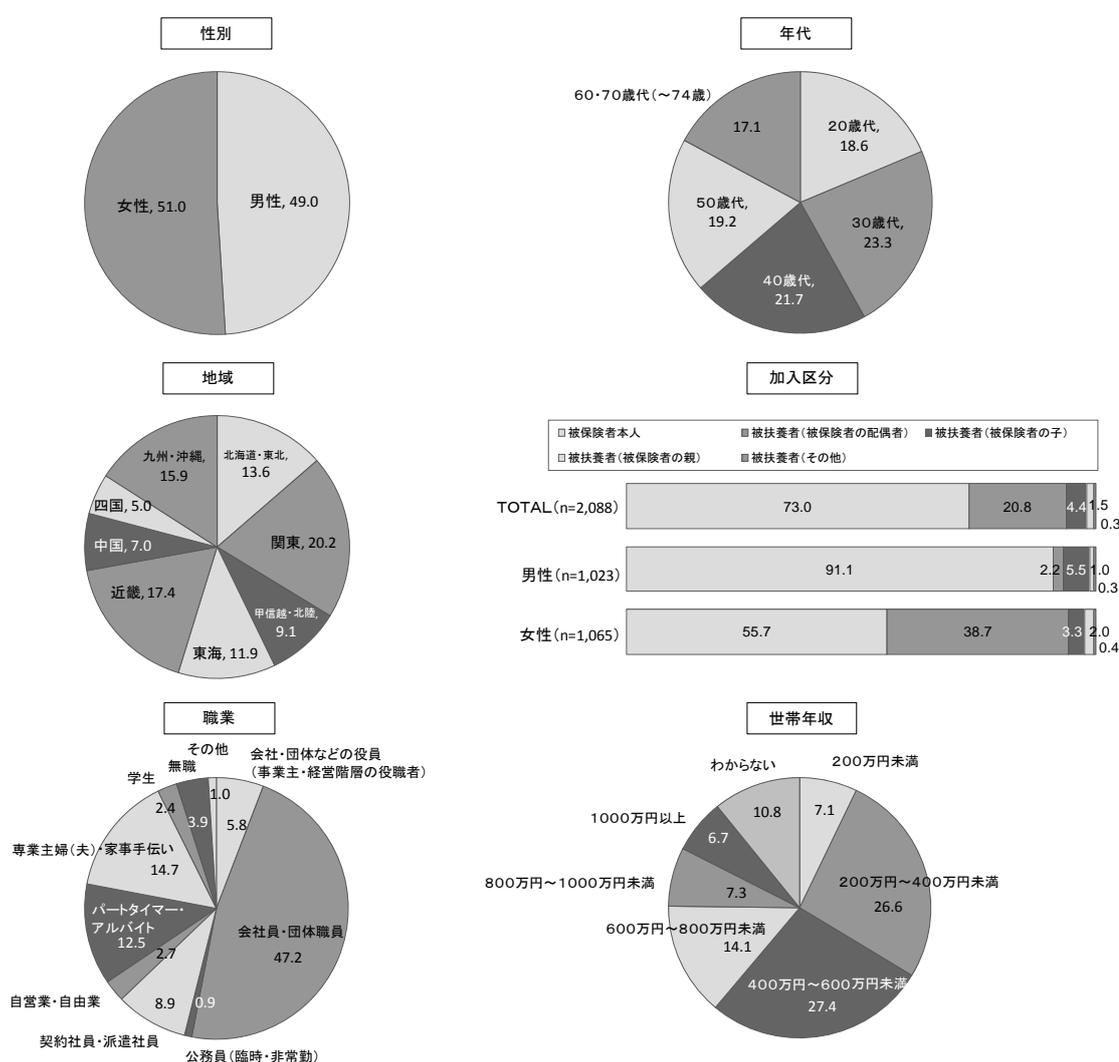
- ◇ 医療機関の受診および薬局での調剤利用状況
- ◇ 協会けんぽの取り組みに対する認知と評価
- ◇ 保険料負担についての考え方
- ◇ 医療費負担のあり方

※本調査において、複数回答のデータにはその旨記載している。

特に記載のないデータは単数回答である。

## 1. 6 回答者基本属性

- 性別：「男性」49.0%、「女性」51.0%
- 年代：「20歳代」18.6%、「30歳代」23.3%、「40歳代」21.7%、「50歳代」19.2%、「60歳代」14.8%、「70～74歳」2.3%
- 地域：「北海道・東北」13.6%、「関東」20.2%、「甲信越・北陸」9.1%、「東海」11.9%、「近畿」17.4%、「中国」7.0%、「四国」5.0%、「九州・沖縄」15.9%
- 加入区分：「被保険者本人」が7割（73.0%）、「被扶養者（配偶者）」が2割（20.8%）
- 職業：「会社員・団体職員」が半数（47.2%）、「専業主婦（夫）・家事手伝い」（14.7%）と「パートタイマー・アルバイト」（12.5%）がそれぞれ1割強。
- 世帯年収：「400万円～600万円未満」が3割（27.4%）と最も多く、「200万円～400万円未満」（26.6%）がそれに続き、年収600万円未満が全体の6割（61.1%）を占める。

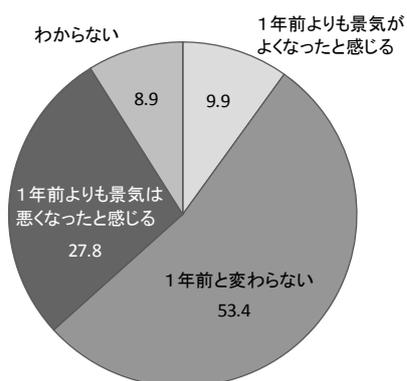


※上記グラフはすべて n=2,088、単位は%。

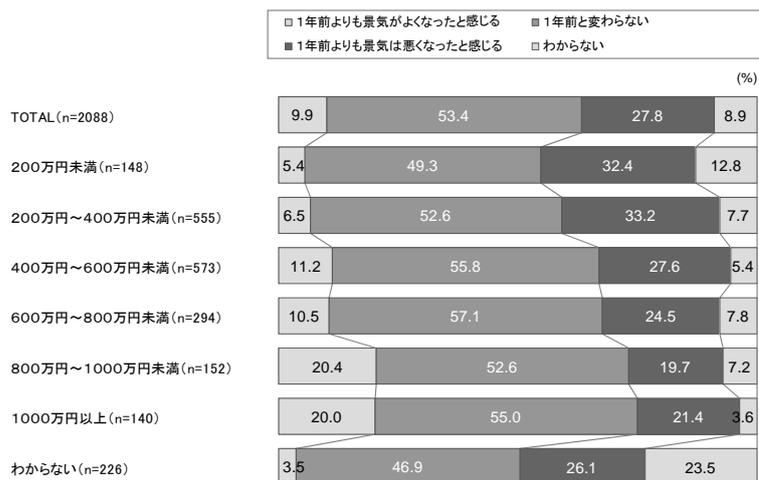
## 1.7 その他

- 景況感：「1年前と変わらない」が半数（53.4%）、「1年前よりも景気は悪くなったと感じる」が3割（27.8%）。世帯年収が400万円未満の層では「1年前よりも景気は悪くなったと感じる」が3分の1を占める。
- 世帯収入の変化：「1年前と変わらない」が半数（52.1%）、「1年前よりも収入が減った」が3割（29.9%）。世帯年収が400万円未満の層では「1年前よりも収入が減った」が4割前後にのぼる。

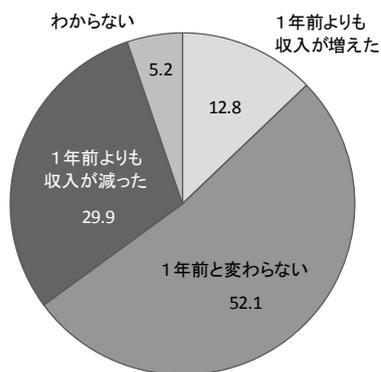
景況感



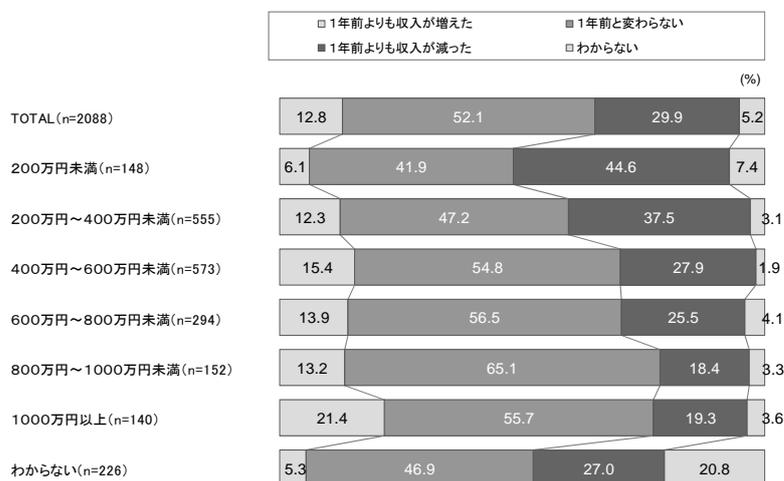
景況感(世帯年収別)



世帯収入の変化



世帯収入の変化(世帯年収別)

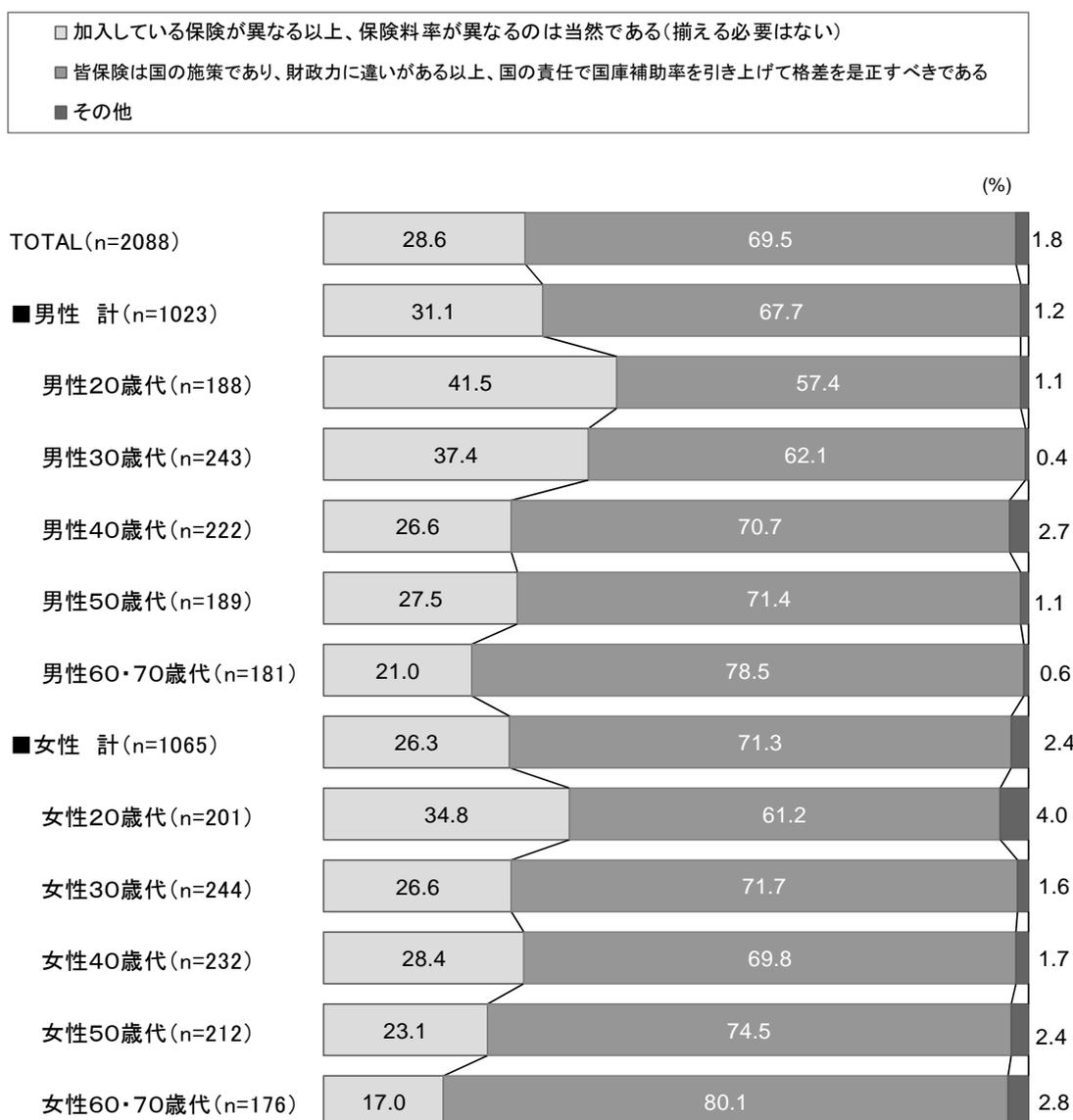


※上記グラフは n=2,088、単位は%。

## 2 調査結果のまとめ

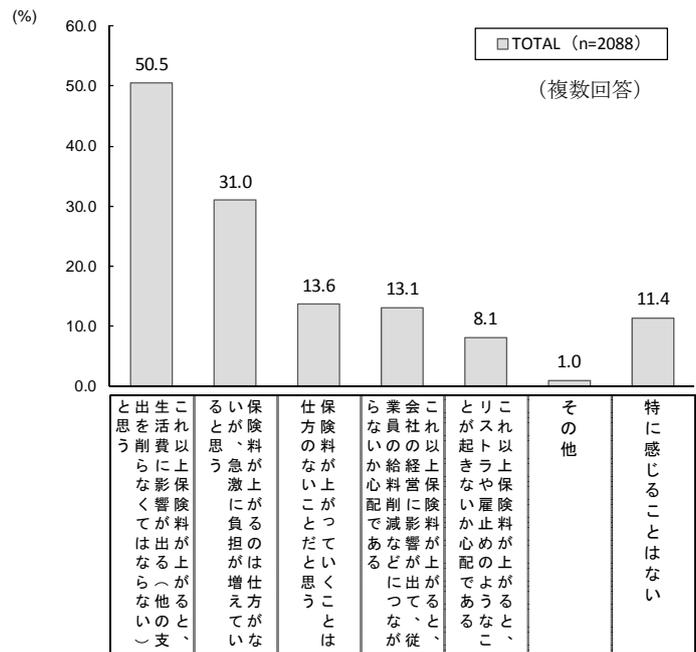
### ■保険料率の格差に対する考え（詳細 p. 47 参照）

加入している健康保険によって保険料率に差があることについては、「皆保険は国の施策であり、財政力に違いがある以上、国の責任で国庫補助率を引き上げて格差を是正すべきである」が 69.5%であり、年代の高い方がそのように考える割合も高い。



■協会けんぽの保険料率負担が増加していることに対する意見（詳細 p. 41 参照）

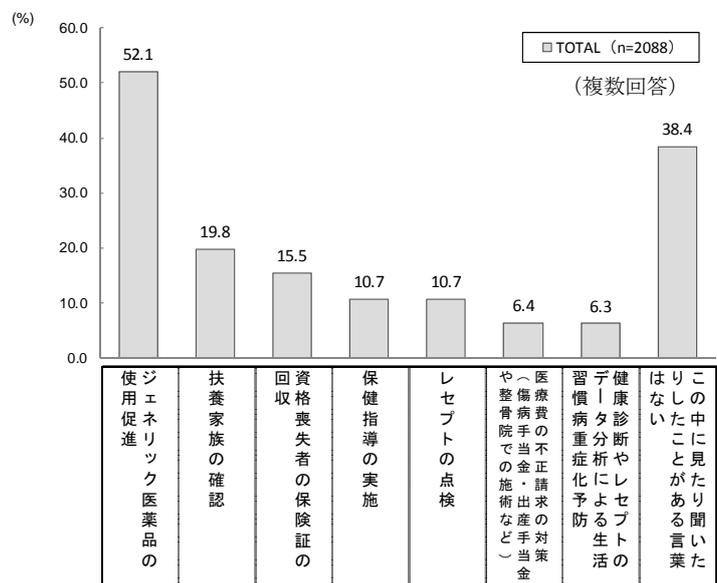
協会けんぽの保険料率負担が増加していることについては、「これ以上保険料が上がると、生活費に影響が出る（他の支出を削らなくてはならない）と思う」が 50.5%と最も多く、「保険料が上がるのは仕方がないが、急激に負担が増えていると思う」（31.0%）、「保険料が上がっていくことは仕方のないことだと思う」（13.6%）と続く。



■協会けんぽの取り組みに対する認知と評価（詳細 p. 16～40 参照）

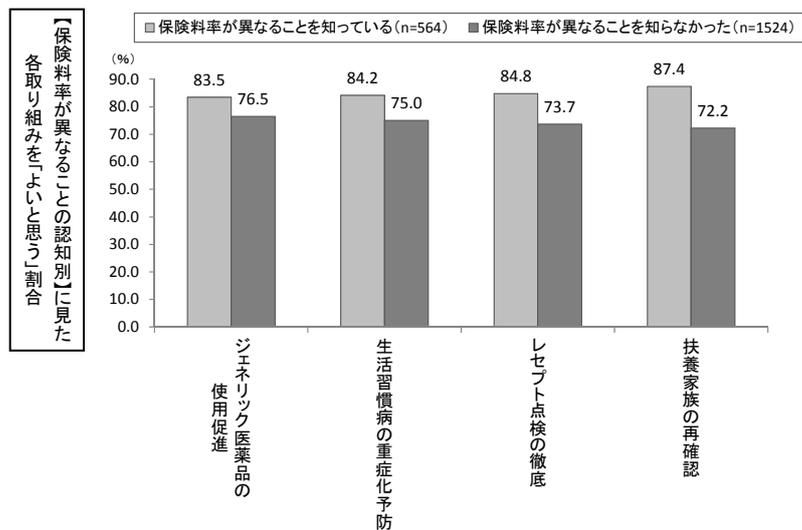
協会けんぽの取り組みとして例示したうち、もっとも認知率が高いのは「ジェネリック医薬品の使用促進」で、半数以上（52.1%）が知っていると回答している。以下、「扶養家族の確認」（19.8%）、「資格喪失者の保険証の回収」（15.5%）と続く。

「この中に見たり聞いたりしたことがある言葉はない」は4割弱（38.4%）である。



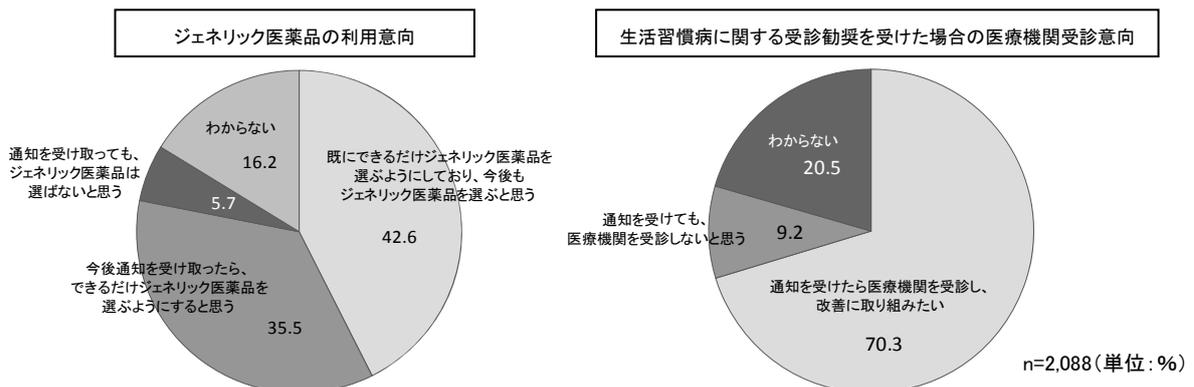
「ジェネリック医薬品の使用促進」、「生活習慣病の重症化予防」、「レセプト点検の徹底」、「扶養家族の再確認」の各取り組みの説明に対する評価はいずれも8割弱程度である。

加入している健康保険によって保険料率が異なることの認知別に見ると、いずれの取り組みも「保険料率が異なることを知っている」人の方が評価は高く、8～9割が「よいと思う」と回答しているのに対し、「保険料率が異なることを知らなかった」人の「よいと思う」割合は7割程度にとどまっている。



今後のジェネリック医薬品の利用意向は8割弱（78.1%、「既にジェネリック医薬品を選ぶようにしており、今後もジェネリック医薬品を選ぶと思う」と「今後通知を受け取ったら、できるだけジェネリック医薬品を選ぶようにすると思う」の合計）である。

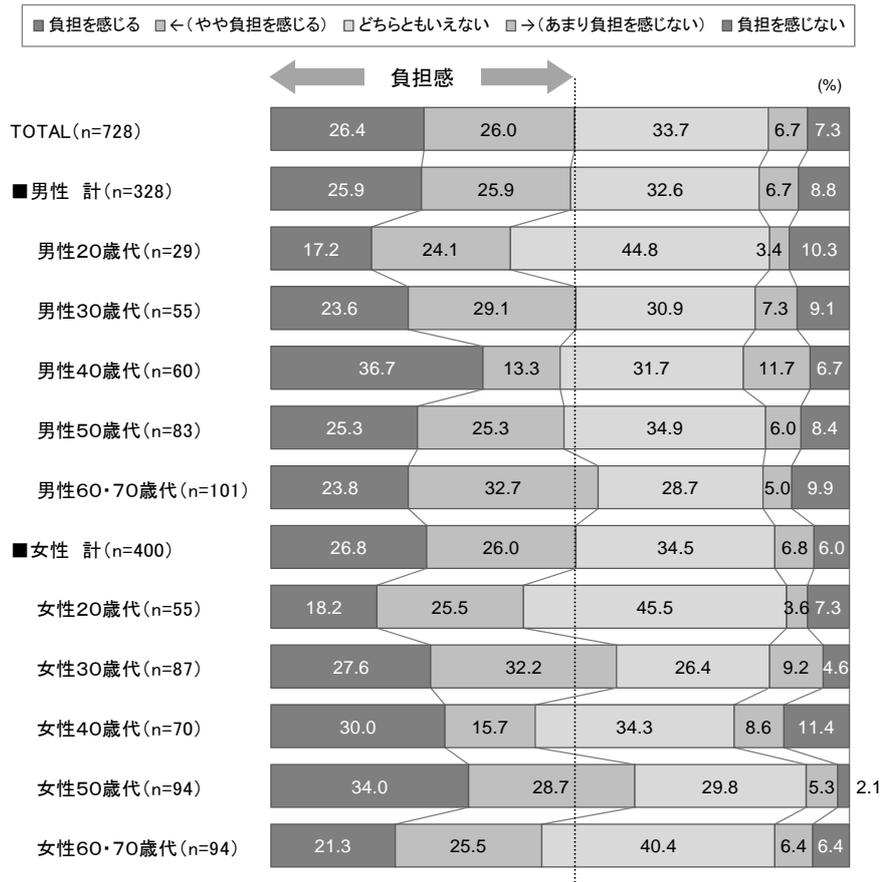
また、生活習慣病に関する受診勧奨を受けた場合の受診意向は7割（70.3%）となっている。



■今年4月以降の医療費の負担感の変化（詳細 p. 12 参照）

今年1～3月と4～6月の両期間に病院・診療所、または歯科を受診した人の回答によると、3月以前と比較して、4月以降の医療費の支払いに負担感があるとする割合（「負担を感じる」と「←（やや負担を感じる）」の合計）は半数（52.4%）を占める。

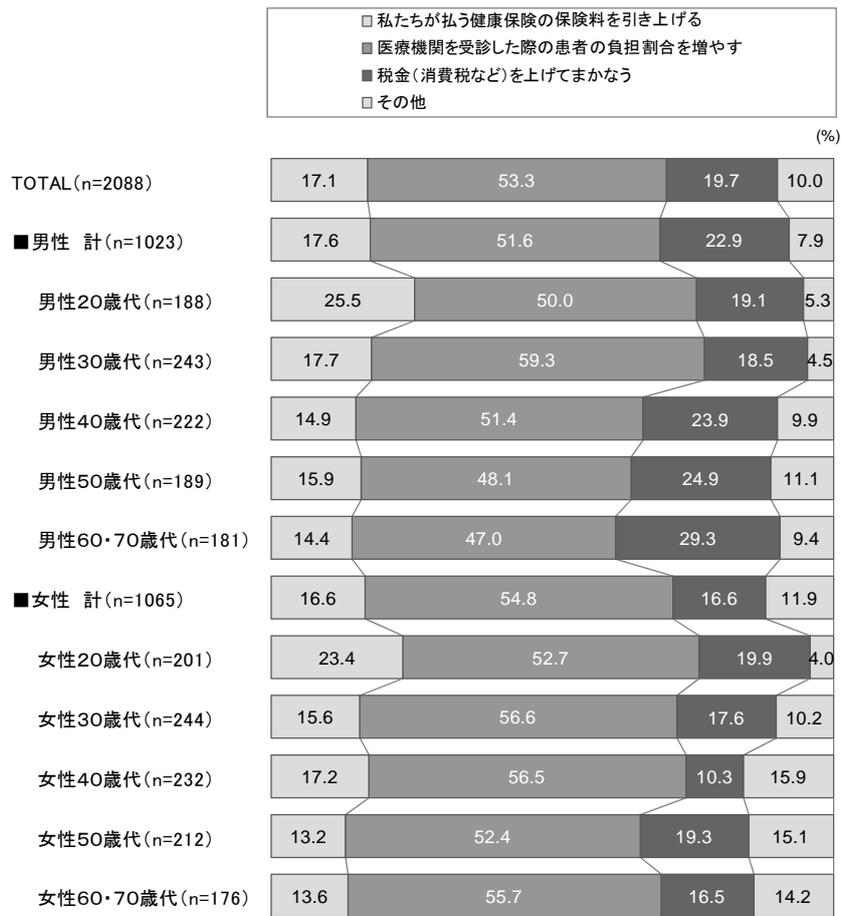
性・年代別に見ると、女性30歳代（59.8%）と50歳代（62.7%）で負担感があるとする割合が高く、それぞれ6割前後にのぼる。



■国民の負担が増える場合の医療費のまかない方（詳細 p. 53 参照）

医療費が増え続けることによって国民の負担が増える場合、最も適切な医療費のまかない方として「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」と回答した割合は 53.3%と過半数を占めている。「税金（消費税など）を上げてまかなう」は 19.7%、「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」は 17.1%である。

性・年代別に見ると、男女ともに 20 歳代では「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」が 2割強と他の年代より高い。一方、男性 50 歳代以上では「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」が半数を下回り、「税金（消費税など）を上げてまかなう」が 3割弱となっている。



### 3 調査結果詳細

#### 3. 1 医療機関・薬局の利用状況

##### 3. 1. 1 医療機関の受診・薬局での調剤利用状況（今年1月～6月）（問1）

問1 今年1月～6月のあなたの医療機関受診状況についてうかがいます。

今年1月～6月の間に、あなたは医療機関を受診したり、薬局で調剤（処方せんで薬を処方してもらうこと）を受けたりしましたか。受診や調剤を受けた方は、その月をすべてお答えください。

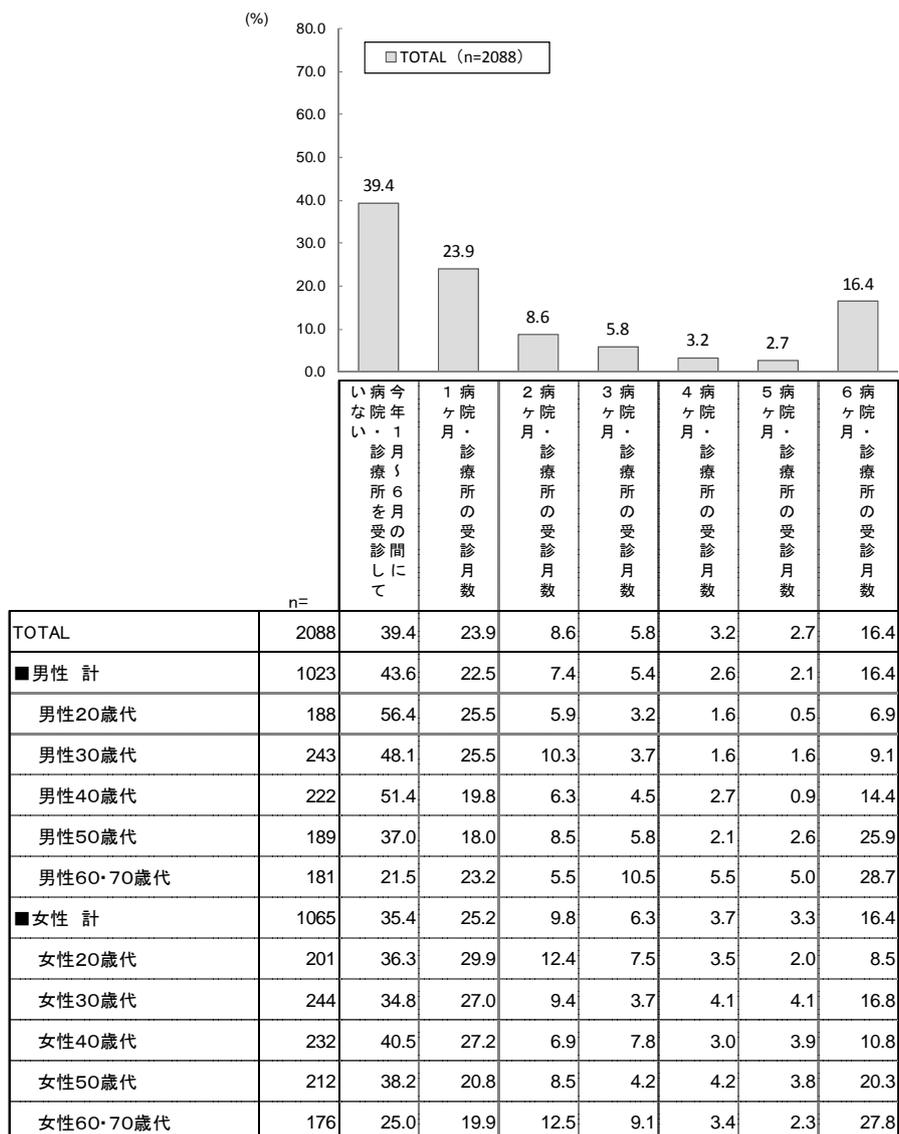
（回答は該当するものすべて）

#### ① 病院・診療所（歯科以外）

6割（60.6%）は今年1月～6月に病院・診療所を受診したことがあると回答しており、その受診月数は「1ヶ月」が最も多く23.9%、次いで「6ヶ月」が16.4%となっている

性・年代別に見ると、男性20～40歳代で受診がないとする割合が高く、5割前後を占める。一方、年齢が高くなると受診月数も増加する傾向にあり、男女ともに60・70歳代では「6ヶ月」が3割弱と、病院・診療所を毎月受診している割合が高い。

問1 今年1月～6月における病院・診療所の受診状況

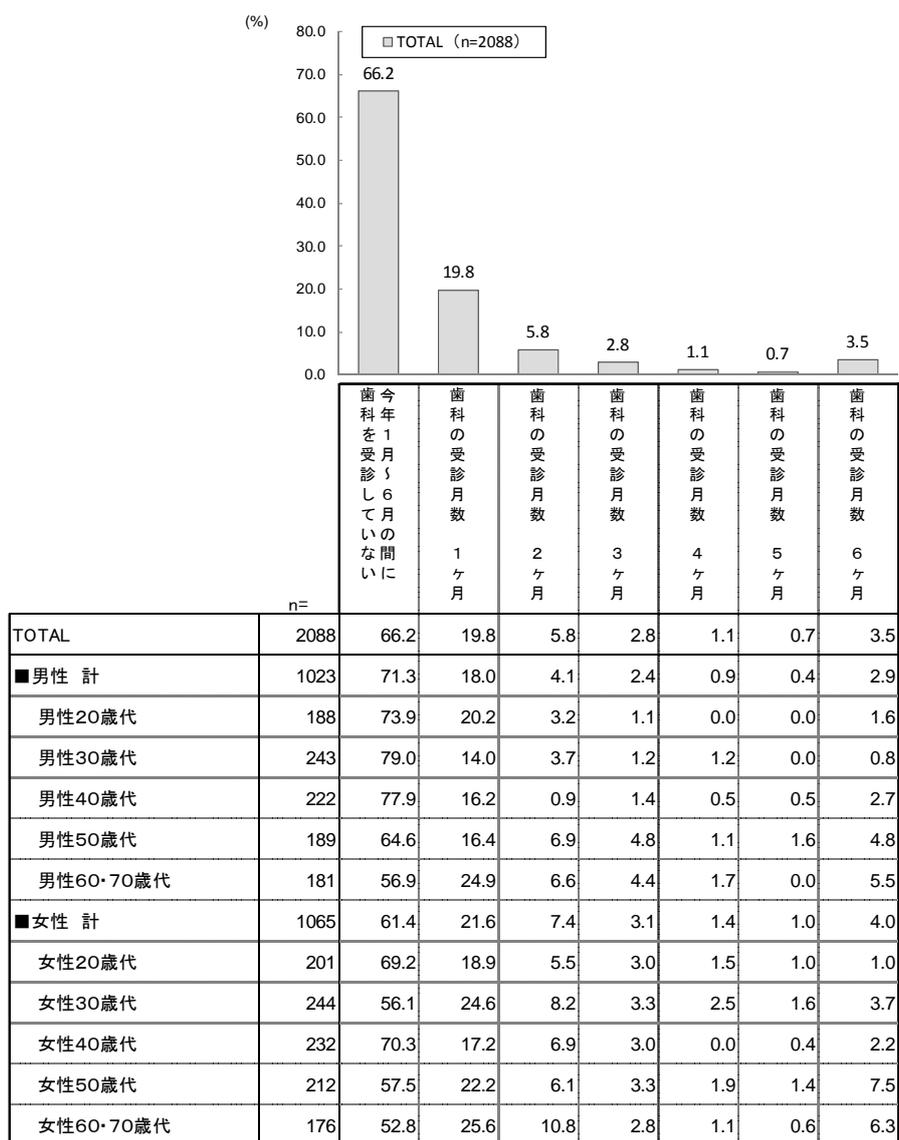


② 歯科

3割強 (33.8%) は今年1月～6月に歯科を受診したことがあると回答しており、その受診月数は「1ヶ月」が最も多く 19.8%、次いで「2ヶ月」が 5.8%となっている

性・年代別に見ると、女性で歯科を受診していないのは6割 (61.4%)、男性では7割 (71.3%) と、男性の方が歯科の受診率が低い。特に、男性 20～40 歳代では8割弱が受診していない。

問1 今年1月～6月における歯科の受診状況

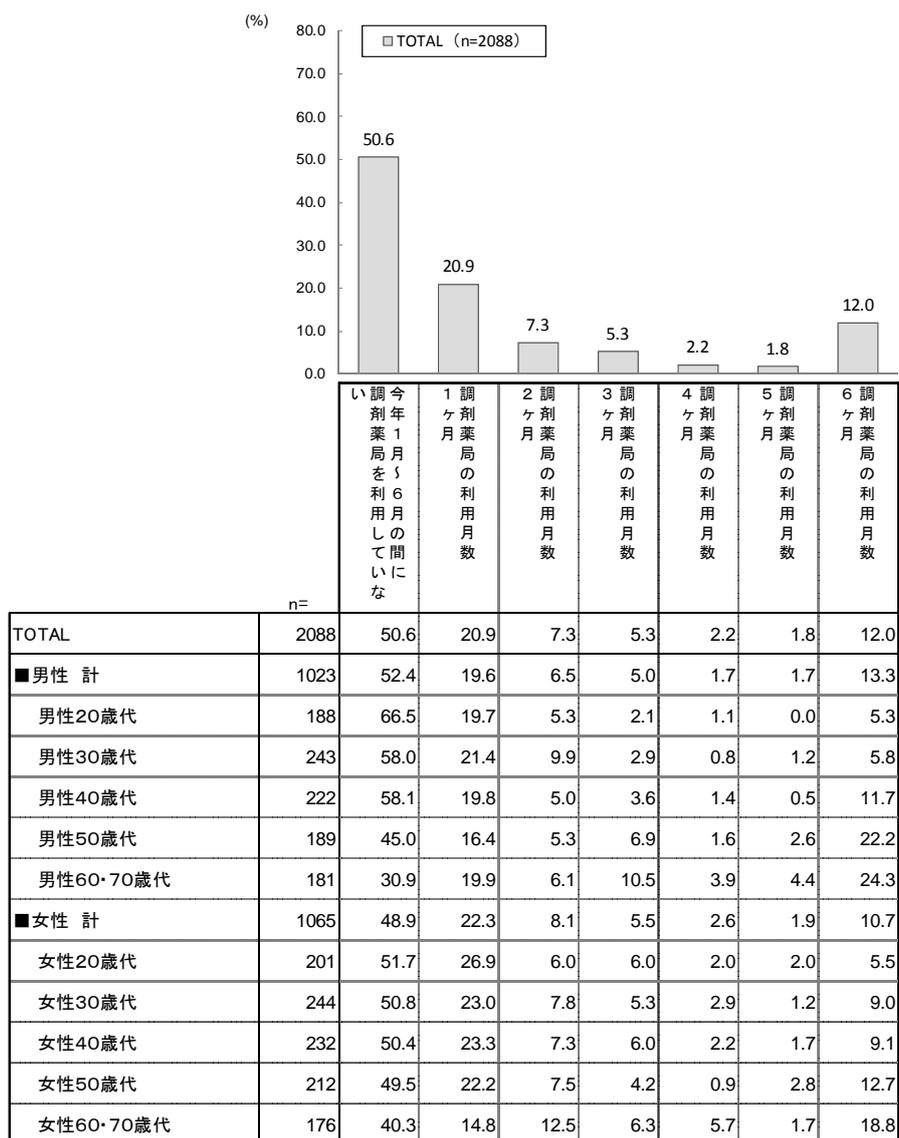


### ③ 薬局での調剤

半数（49.4%）が今年1月～6月に薬局での調剤を利用したことがあると回答しており、その利用月数は「1ヶ月」が最も多く20.9%、次いで「6ヶ月」が12.0%となっている

病院・診療所と同様に、男性20～40歳代では利用がないとする割合が高く、6割前後を占めている。また、男性50歳代以上と女性60・70歳代では毎月利用している割合が2割前後と、他の年代より高い。

問1 今年1月～6月における薬局での調剤利用状況



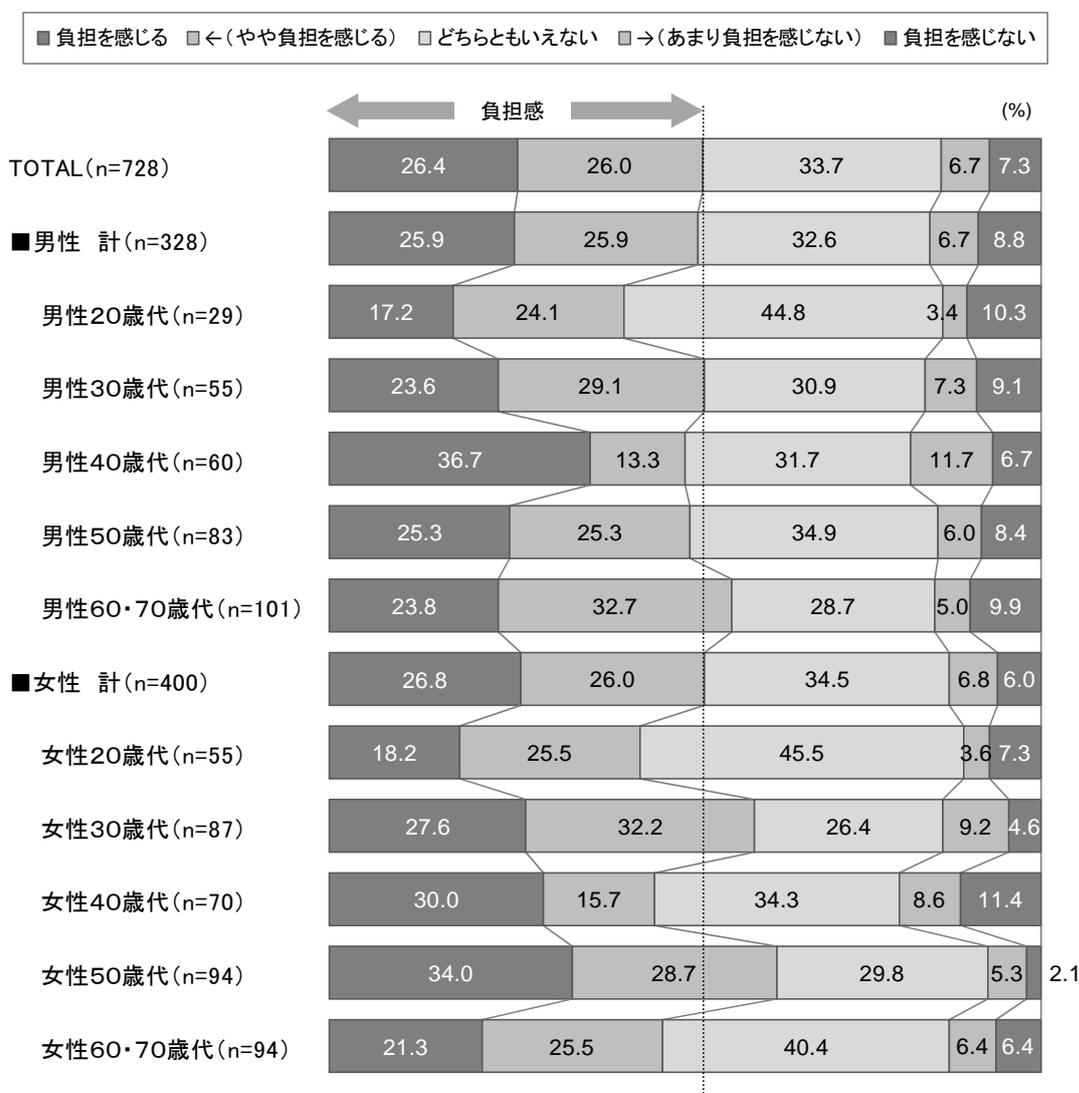
3. 1. 2 今年4月以降の医療費の負担感の変化（問2）

問2 消費税増税に伴い、今年の4月1日から診療報酬（治療や検査など医療行為等の単価）も改定されました。受診する際の初診料や再診料などが引き上げられています。  
 今年4月以降の医療費の支払いは、3月以前と比較してどの程度負担を感じますか。（回答は1つ）

今年3月以前と比較して、4月以降の医療費の支払いに「負担を感じる」のは26.4%、「←（やや負担を感じる）」のは26.0%と、負担感があるとする割合（「負担を感じる」と「←（やや負担を感じる）」の合計）は半数（52.4%）を占める。

性・年代別に見ると、女性30歳代（59.8%）と50歳代（62.7%）で負担感があるとする割合が高く、それぞれ6割前後にのぼる。

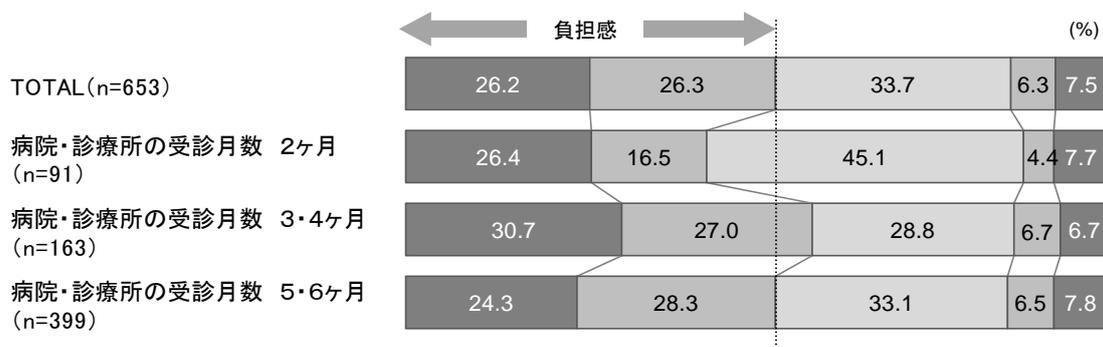
問2 4月以降の医療費の負担感【ベース:1~3月、4~6月の両期間に病院・診療所、または歯科を受診した人】



今年1月～3月、4月～6月の両期間に病院・診療所を受診した人について受診月数別に見ると、負担感があるとする割合は「3・4ヶ月」受診者で最も高く、6割弱（57.7%）にのぼる。「5・6ヶ月」受診者では5割強（52.6%）、「2ヶ月」受診者では4割強（42.9%）である。「2ヶ月」受診者は、「どちらともいえない」も4割強（45.1%）を占め、他の層より割合が高い。

問2 4月以降の医療費の負担感【ベース:1～3月、4～6月の両期間に病院・診療所を受診した人】

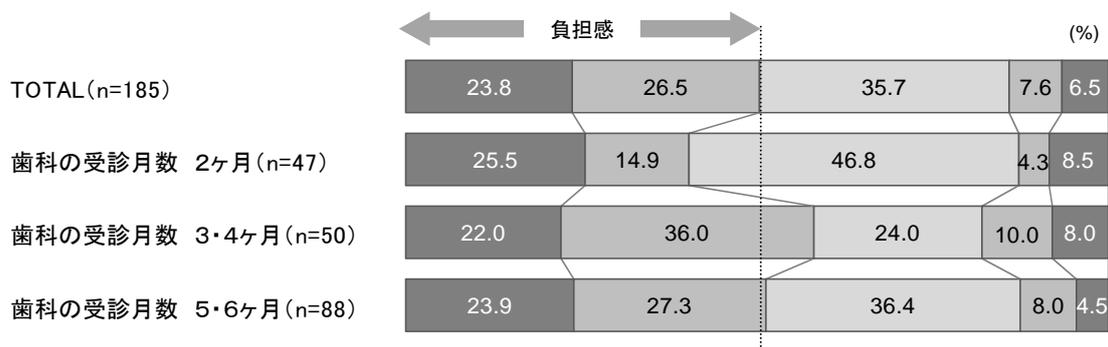
■ 負担を感じる ■ ←(やや負担を感じる) □ どちらともいえない ■ →(あまり負担を感じない) ■ 負担を感じない



今年1月～3月、4月～6月の両期間に歯科を受診した人について受診月数別に見ると、病院・診療所の場合と同様、負担感があるとする割合は「3・4ヶ月」受診者で最も高く、6割弱（58.0%）にのぼる。「5・6ヶ月」受診者では5割（51.2%）、「2ヶ月」受診者では4割（40.4%）である。「2ヶ月」受診者は、「どちらともいえない」も5割弱（46.8%）を占め、他の層より割合が高い。

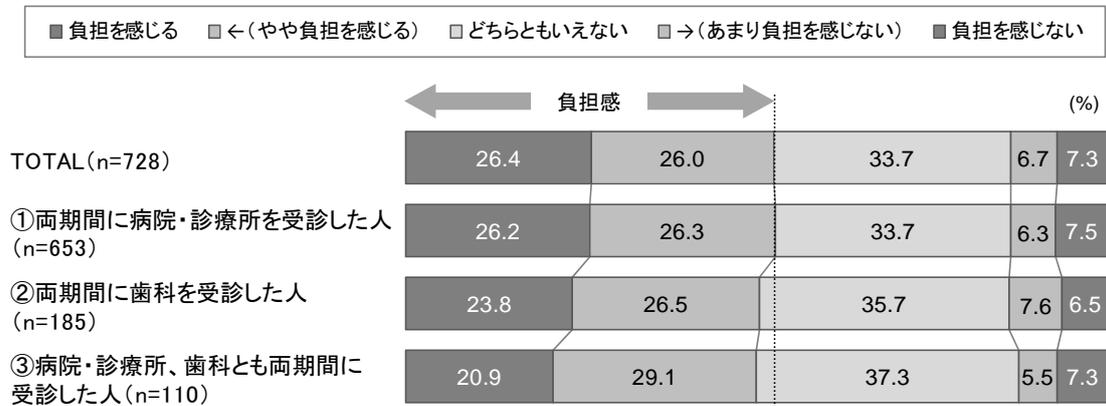
問2 4月以降の医療費の負担感【ベース:1～3月、4～6月の両期間に歯科を受診した人】

■ 負担を感じる ■ ←(やや負担を感じる) □ どちらともいえない ■ →(あまり負担を感じない) ■ 負担を感じない



今年1月～3月、4月～6月の病院・診療所、歯科の受診状況別に見ると、「両期間に病院・診療所を受診した人」、「両期間に歯科を受診した人」、「病院・診療所、歯科ともに両期間に受診した人」のいずれの場合も、負担感があるとする割合は5割前後である。

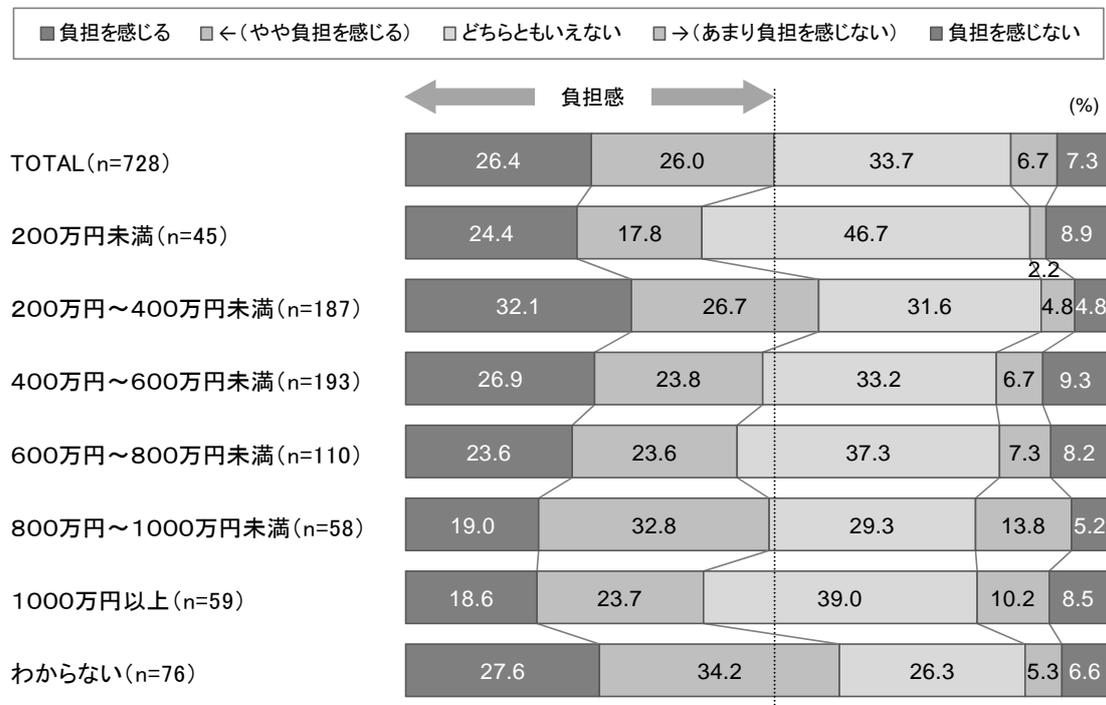
問2 4月以降の医療費の負担感【ベース:1～3月、4～6月の両期間に病院・診療所、または歯科を受診した人】



※③は上記①②のうち両方に重複している人

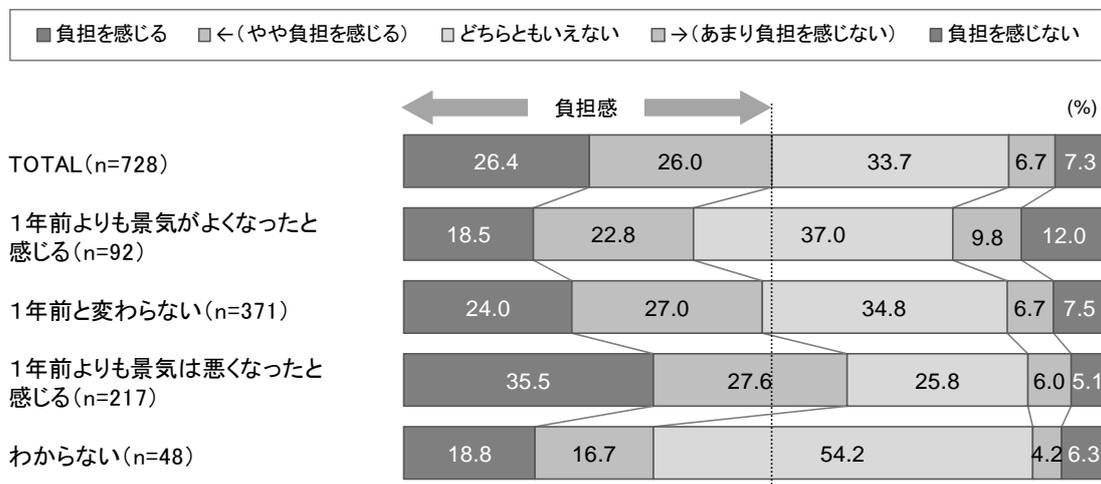
世帯年収別に見ると、年収が低い世帯ほど負担感があるとする割合は高い傾向にあり、「200万円～400万円未満」では6割（58.8%）を占めている。

問2 4月以降の医療費の負担感【ベース:1～3月、4～6月の両期間に病院・診療所、または歯科を受診した人】



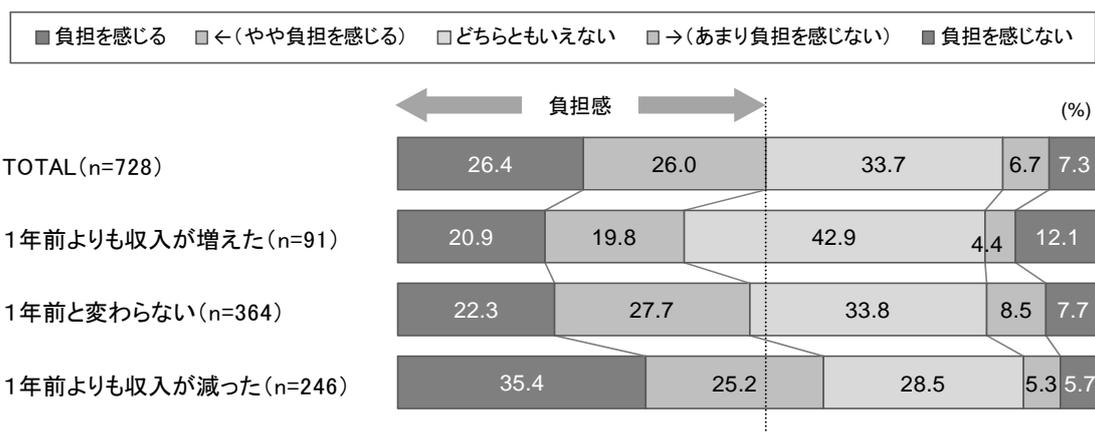
景況感別に見ると、「1年前よりも景気がよくなったと感じる」人の負担感があるとする割合は4割（41.3%）である一方、「1年前よりも景気は悪くなったと感じる」人の負担感があるとする割合は6割強（63.1%）と高い。

問2 4月以降の医療費の負担感【ベース:1~3月、4~6月の両期間に病院・診療所、または歯科を受診した人】



この1年間の世帯収入の変化別に見ると、「1年前よりも収入が増えた」人の負担感があるとする割合は4割（40.7%）である一方、「1年前よりも収入が減った」人の負担感があるとする割合は6割（60.6%）と高い。

問2 4月以降の医療費の負担感【ベース:1~3月、4~6月の両期間に病院・診療所、または歯科を受診した人】



※n>30の結果のみ表示

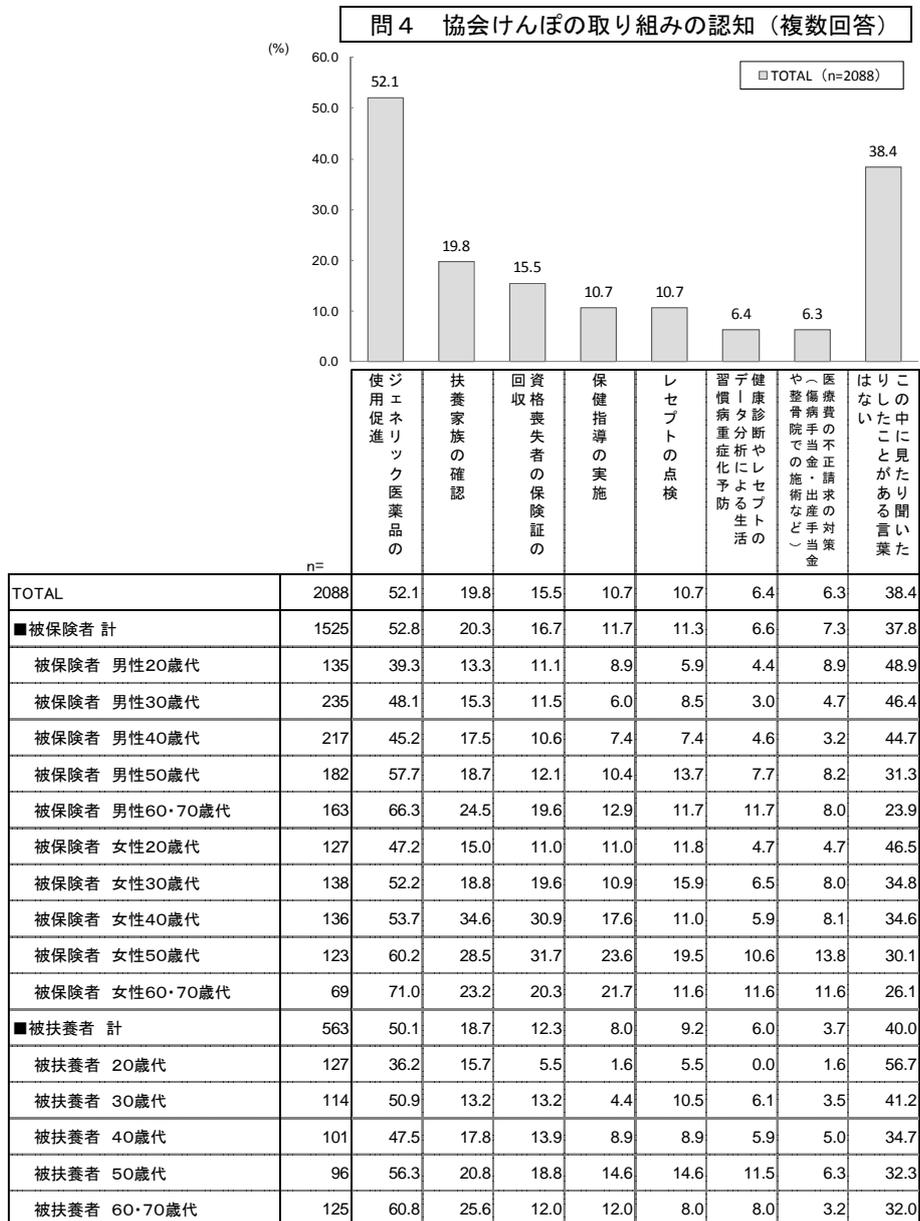
### 3. 2 協会けんぽの取り組みに対する認知と評価

#### 3. 2. 1 協会けんぽの取り組みの認知（問4）

問4 協会けんぽでは以下のような取り組みを行っています。次の中で、あなたがこれまでに見たり、聞いたことがある言葉はありますか。（回答は該当するものすべて）

協会けんぽの取り組みのうち、「ジェネリック医薬品の使用促進」は半数以上が知っている（52.1%）が、次点の「扶養家族の確認」は約2割（19.8%）と開きがある。「この中に見たり聞いたことがある言葉はない」は38.4%で、4割弱はいずれの取り組みも知らないと回答している。

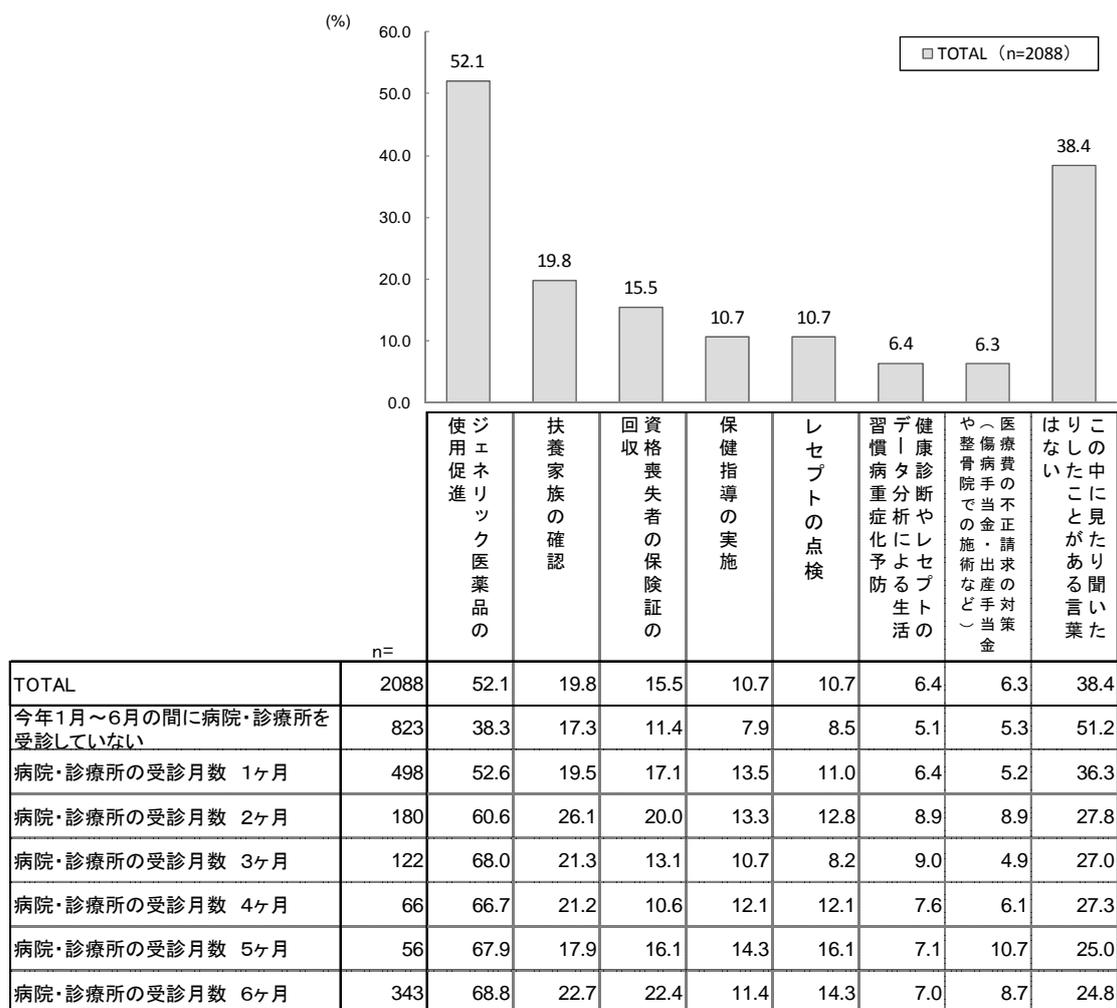
性・年代別および加入者区分別に見ると、男性より女性の方が、また年代が高いほど何らかの取り組みを知っている割合が高い傾向が見られる。また、被保険者は「資格喪失者の保険証の回収」、「保健指導の実施」、「医療費の不正請求の対策」の認知率が被扶養者より高い。被保険者の男女ともに60・70歳代は「ジェネリック医薬品の使用促進」の認知率が7割前後と高い。被保険者、被扶養者ともに20歳代は「この中に見たり聞いたことがある言葉はない」と回答している割合が5割前後と高い。



今年1月～6月の病院・診療所受診状況別に見ると、受診月数が多いほど何らかの取り組みを知っている割合が高い傾向にある。「今年1月～6月の間に病院・診療所を受診していない」人では「この中に見たり聞いたりしたことがある言葉はない」が半数（51.2%）を占めるのに対し、受診月数が5ヶ月以上の人では25%程度である。

特に認知率が高いのは「ジェネリック医薬品の使用促進」で、受診月数が3ヶ月以上の人では7割前後が認知している。また、病院・診療所を毎月受診している人は「資格喪失者の保険証の回収」の認知率も他の層より高い。

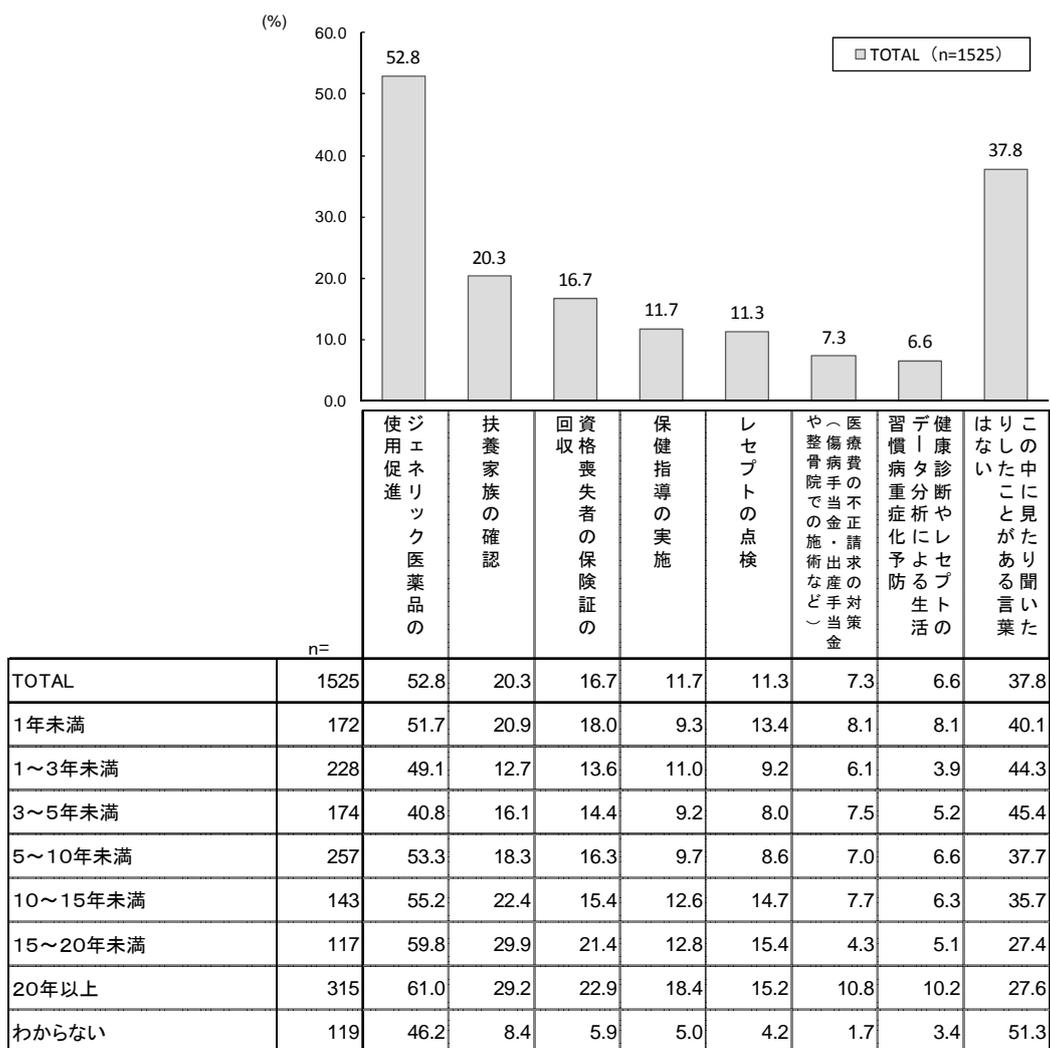
問4 協会けんぽの取り組みの認知（複数回答）



協会けんぽの加入期間別では、加入期間（※）が長いほど、協会けんぽの取り組みに対する認知率が高い傾向が見られる。特に、加入期間が「20年以上」の被保険者は、いずれの取り組みとも全体より高い認知率である。

※加入期間は、政府管掌健康保険（政管健保）からの通算期間。

問4 協会けんぽの取り組みの認知（複数回答）【ベース：被保険者】

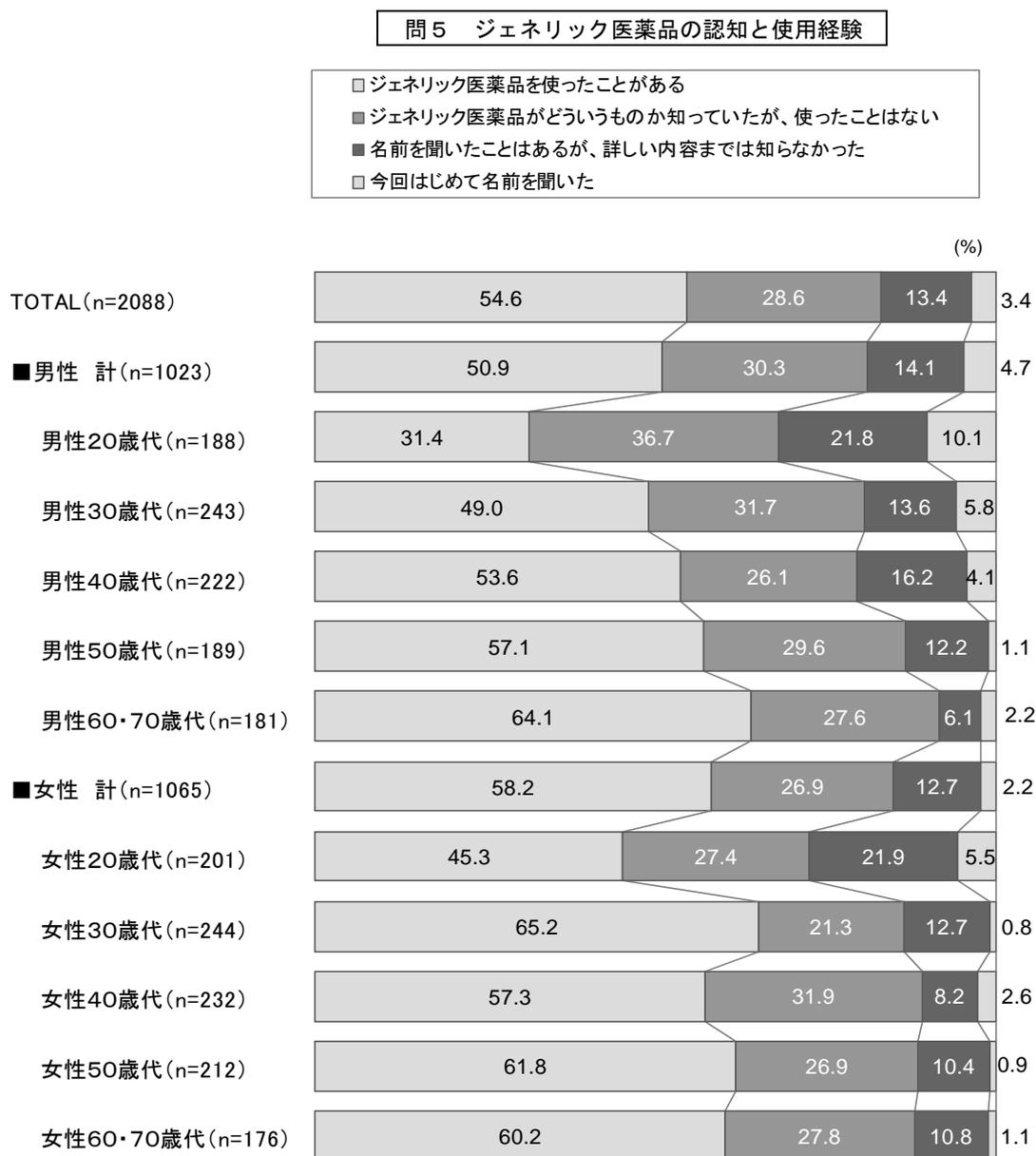


### 3. 2. 2 ジェネリック医薬品の認知と使用経験（問5）

問5 あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）をご存知ですか。次の説明をお読みのうえ、お答えください。（回答は1つ）

「ジェネリック医薬品を使ったことがある」のは 54.6%、「ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない」のは 28.6%であり、合わせると認知率は 8 割強になる。

性・年代別に見ると、男性 20 歳代の使用経験は 3 割（31.4%）と、他の年代より低い。

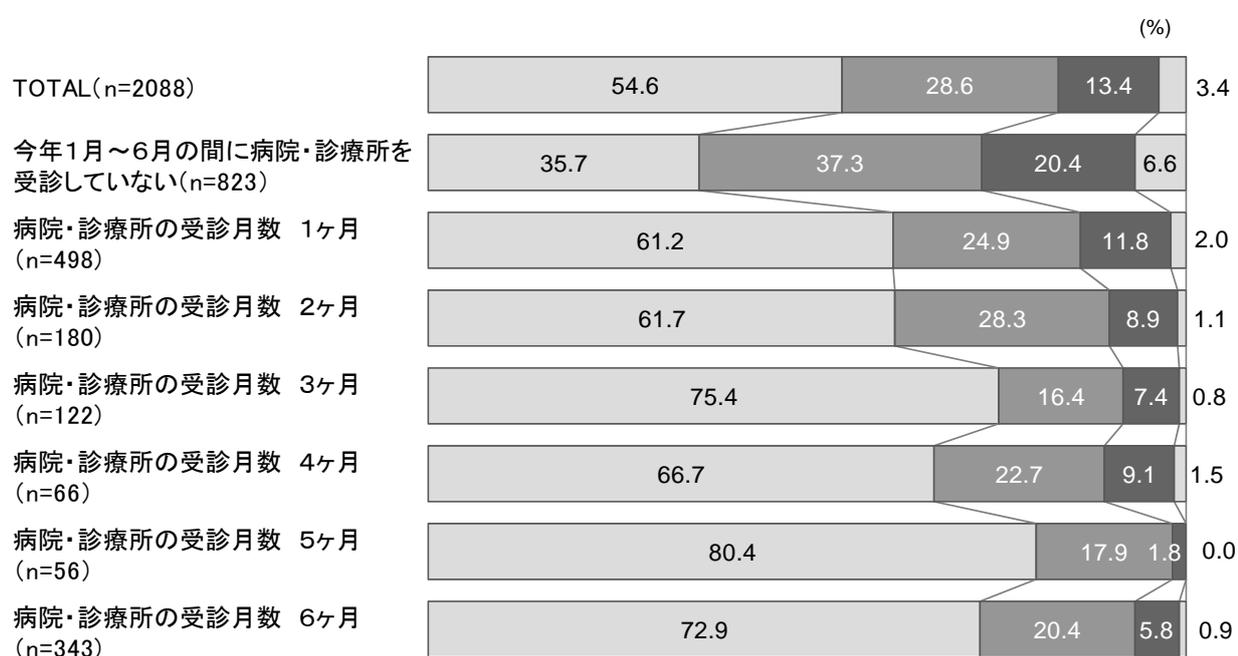


今年1月～6月の病院・診療所受診状況別に見ると、受診月数が3ヶ月以上の人の7～8割にジェネリック医薬品の使用経験があり、「ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない」と合わせると認知率は9割前後にのぼる。

一方、「今年1月～6月の間に病院・診療所を受診していない人」では、認知率は7割強（73.0%）にとどまっており、「名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった」が2割（20.4%）、「今回初めて名前を聞いた」が1割弱（6.6%）となっている。

問5 ジェネリック医薬品の認知と使用経験

- ジェネリック医薬品を使ったことがある
- ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない
- 名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった
- 今回初めて名前を聞いた



### 3. 2. 3 ジェネリック医薬品を知ったきっかけ（問6）

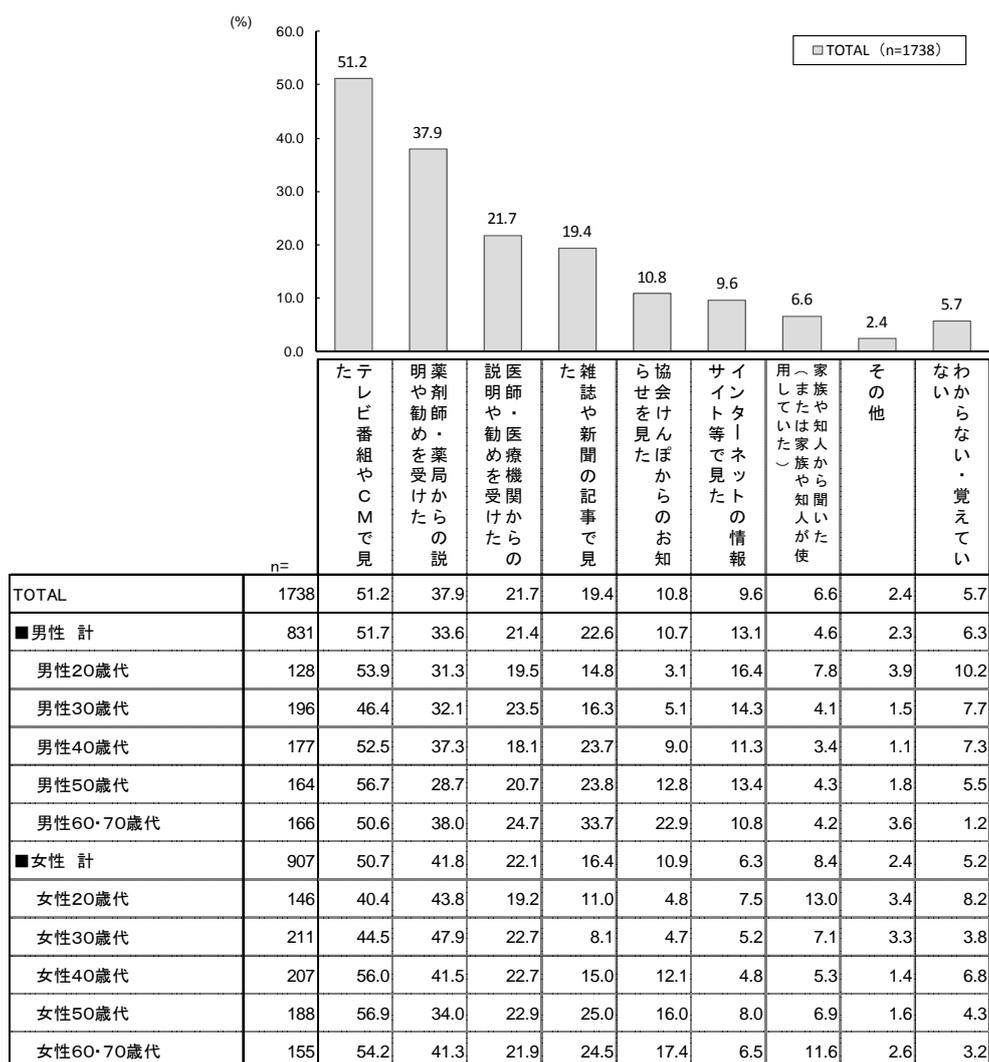
問6 「ジェネリック医薬品」をご存知の方にうかがいます。  
 「ジェネリック医薬品」がどのようなものかを知ったきっかけは何ですか。  
 （回答は該当するものすべて）

「ジェネリック医薬品」を知ったきっかけとしては、「テレビ番組やCMで見た」が最も多く 51.2%、次いで「薬剤師・薬局からの説明や勧めを受けた」（37.9%）、「医師・医療機関からの説明や勧めを受けた」（21.7%）と続く。「協会けんぽからのお知らせを見た」は 10.8%である。

性・年代別に見ると、男性では「雑誌や新聞の記事で見た」や「インターネットの情報サイト等で見た」ことがきっかけとなっていることが多い。特に 20・30 歳代は「インターネットの情報サイト等で見た」の割合が高く、60・70 歳代では「雑誌や新聞の記事で見た」のほか、「協会けんぽからのお知らせを見た」の割合が高い。

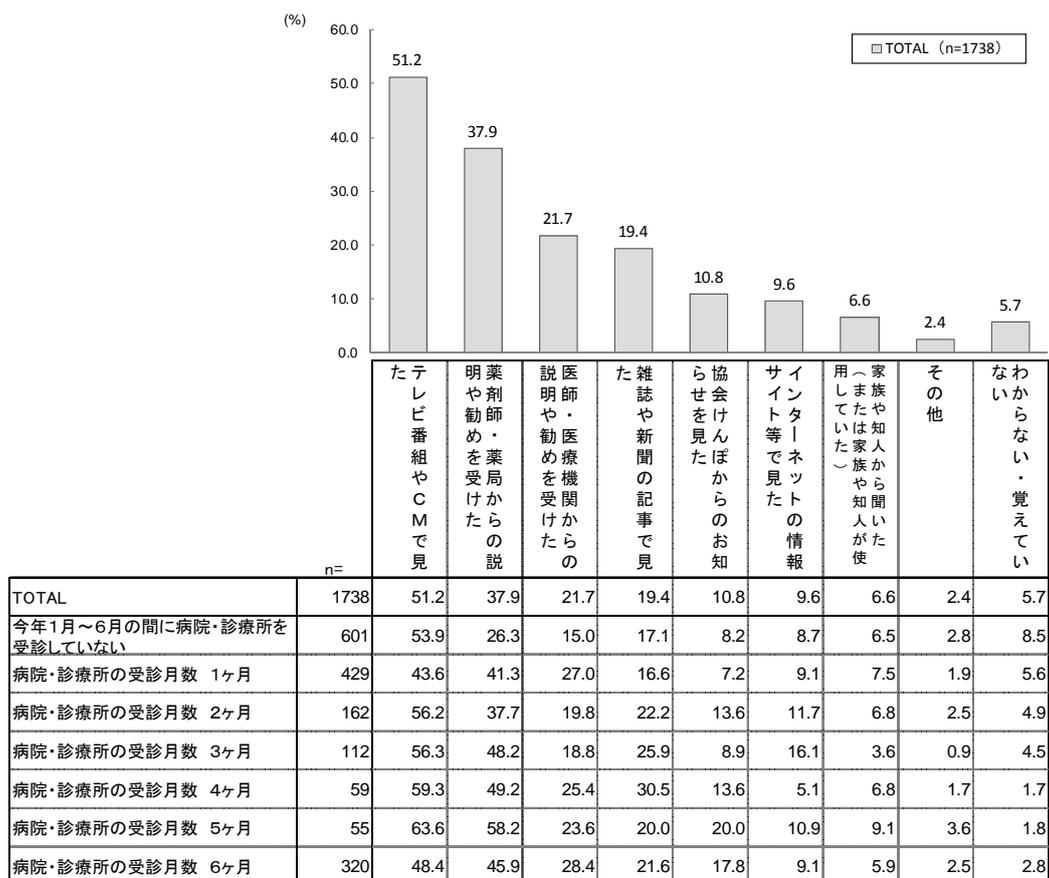
一方、女性では「薬剤師・薬局からの説明や勧めを受けた」や「家族や知人から聞いた（または家族や知人が使用していた）」ことがきっかけとなっていることが多い。50 歳代以上では「協会けんぽからのお知らせを見た」の割合が高い。

問6 ジェネリック医薬品を知ったきっかけ（複数回答）【ベース：ジェネリック医薬品認知者】



今年1月～6月の病院・診療所受診状況別に見ると、「今年1月～6月の間に病院・診療所を受診していない人」と比較して、病院・診療所受診者は「薬剤師・薬局からの説明や勧めを受けた」、「医師・医療機関からの説明や勧めを受けた」ことがきっかけになっている割合が高い。特に、受診月数が3ヶ月以上の人では、「薬剤師・薬局からの説明や勧めを受けた」が5～6割を占めている。また、受診月数が5ヶ月以上の人では、「協会けんぽからのお知らせを見た」も2割前後と、他の層より高い割合である。

問6 ジェネリック医薬品を知ったきっかけ（複数回答）【ベース：ジェネリック医薬品認知者】



3. 2. 4 「ジェネリック医薬品の使用促進」に対する評価（問7）

問7 次の説明をお読みのうえ、お答えください。

ジェネリック医薬品は、先発医薬品（最初に開発された医薬品、新薬）と効能が同等である一方、価格が安く抑えられるため、個人にとっては家計の負担が軽減され、国全体としても医療費の抑制が期待できます。協会けんぽでは「ジェネリック医薬品軽減額通知」を加入者に送り、ジェネリック医薬品への切り替えを促した結果、これまでに約 227 億円の財政効果がありました。

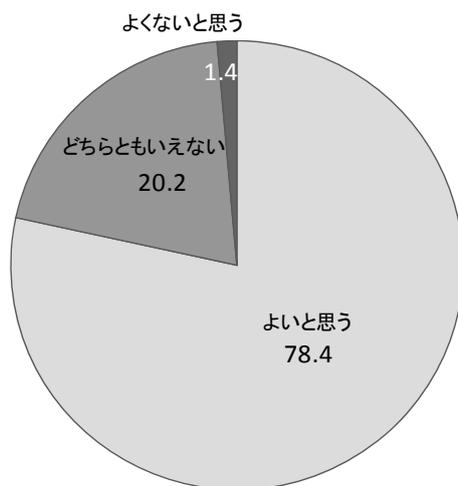
この取り組みについて、あなたはどのように感じますか。（回答は1つ）

「ジェネリック医薬品の使用促進」に対して、「よいと思う」のは 78.4%であった。

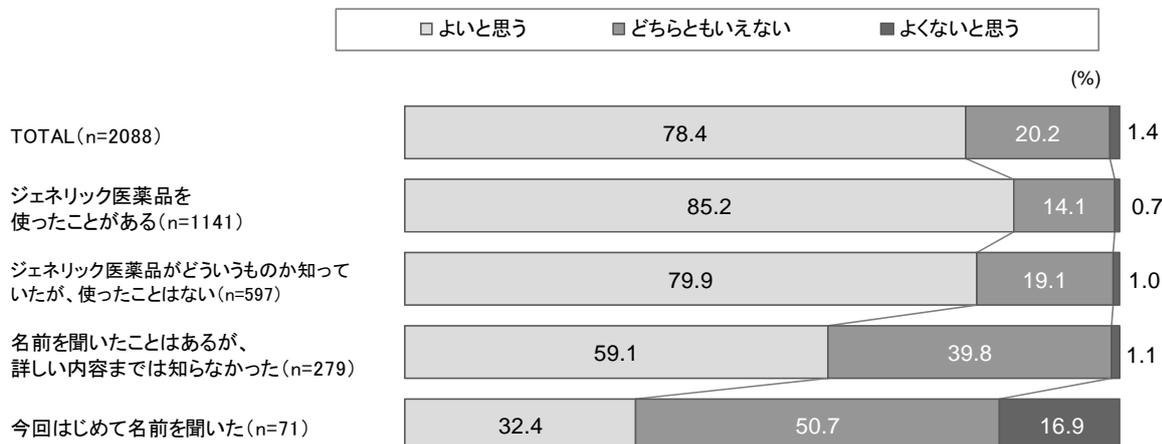
ジェネリック医薬品の認知・使用経験別に見ると、ジェネリック医薬品の認知者（「ジェネリック医薬品を使ったことがある」と「ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない」の合計）は「よいと思う」と回答する割合が高く、8割前後を占める。

一方、「名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった」人の4割（39.8%）、および「今回はじめて名前を聞いた」人の5割（50.7%）は「どちらともいえない」と回答しており、ジェネリック医薬品認知者より高い割合となっている。

問7 「ジェネリック医薬品の使用促進」に対する評価

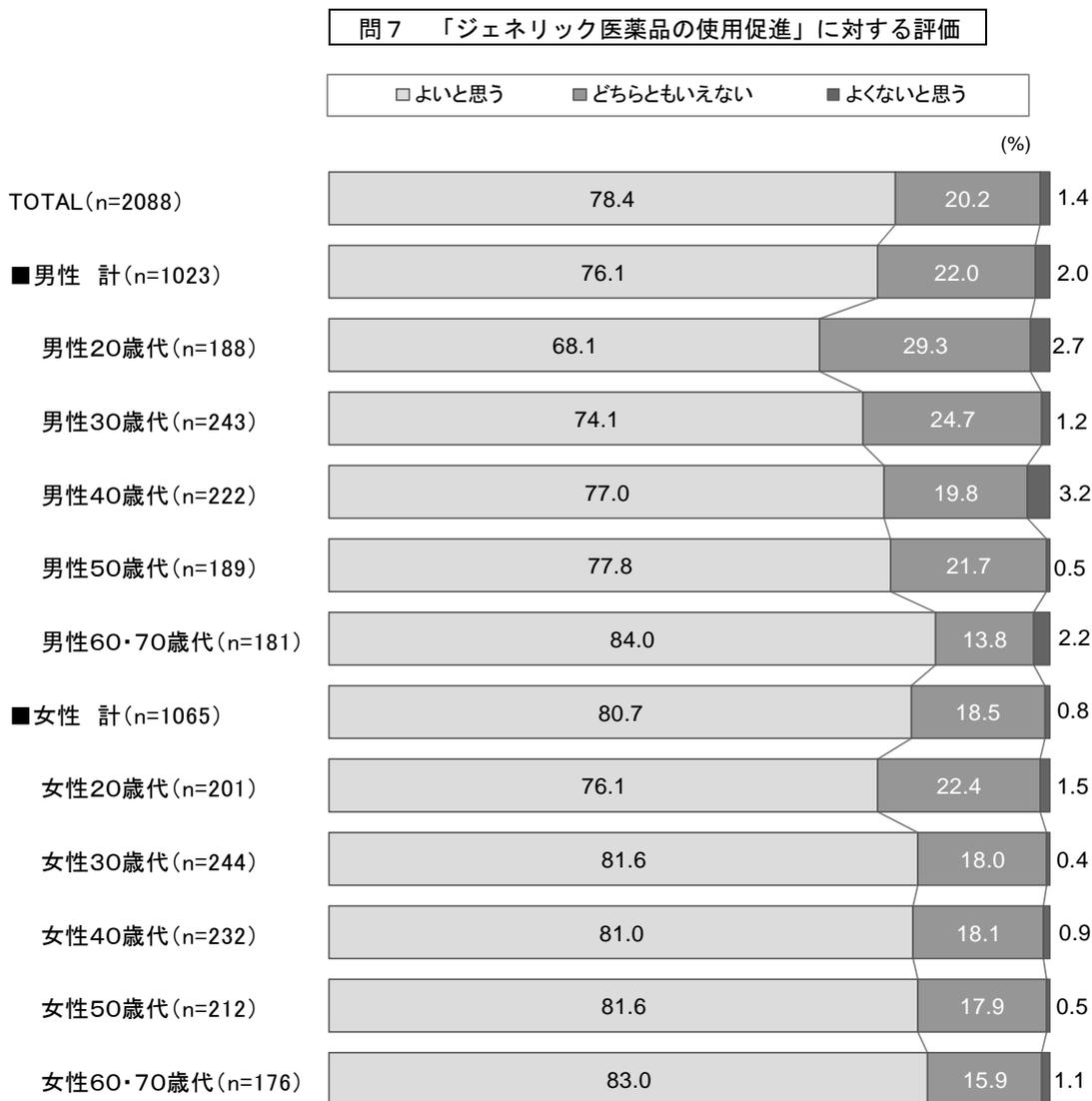


問7 「ジェネリック医薬品の使用促進」に対する評価

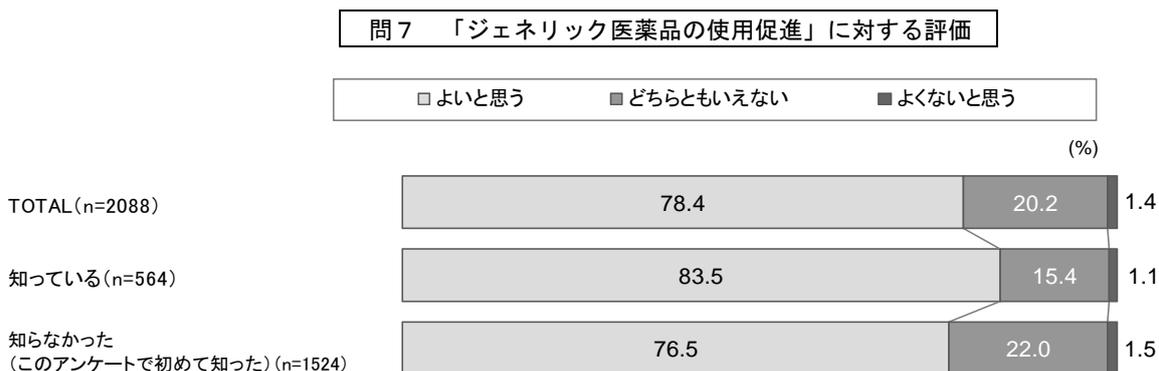


性・年代別に見ると、男性より女性の方が「よいと思う」割合が高い（男性 76.1%、女性 80.7%）。男性 20 歳代では「どちらともいえない」が 3 割（29.3%）を占めており、他の年代より高い割合である。

加入する健康保険によって保険料率が異なることの認知状況別に見ると、保険料率が異なることを「知っている」人は 8 割強（83.5%）がジェネリック医薬品の使用促進に対して「よいと思う」と回答している。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」人では 8 割弱（76.5%）と、よいと評価する割合がやや低い。



保険料率が異なることの認知別



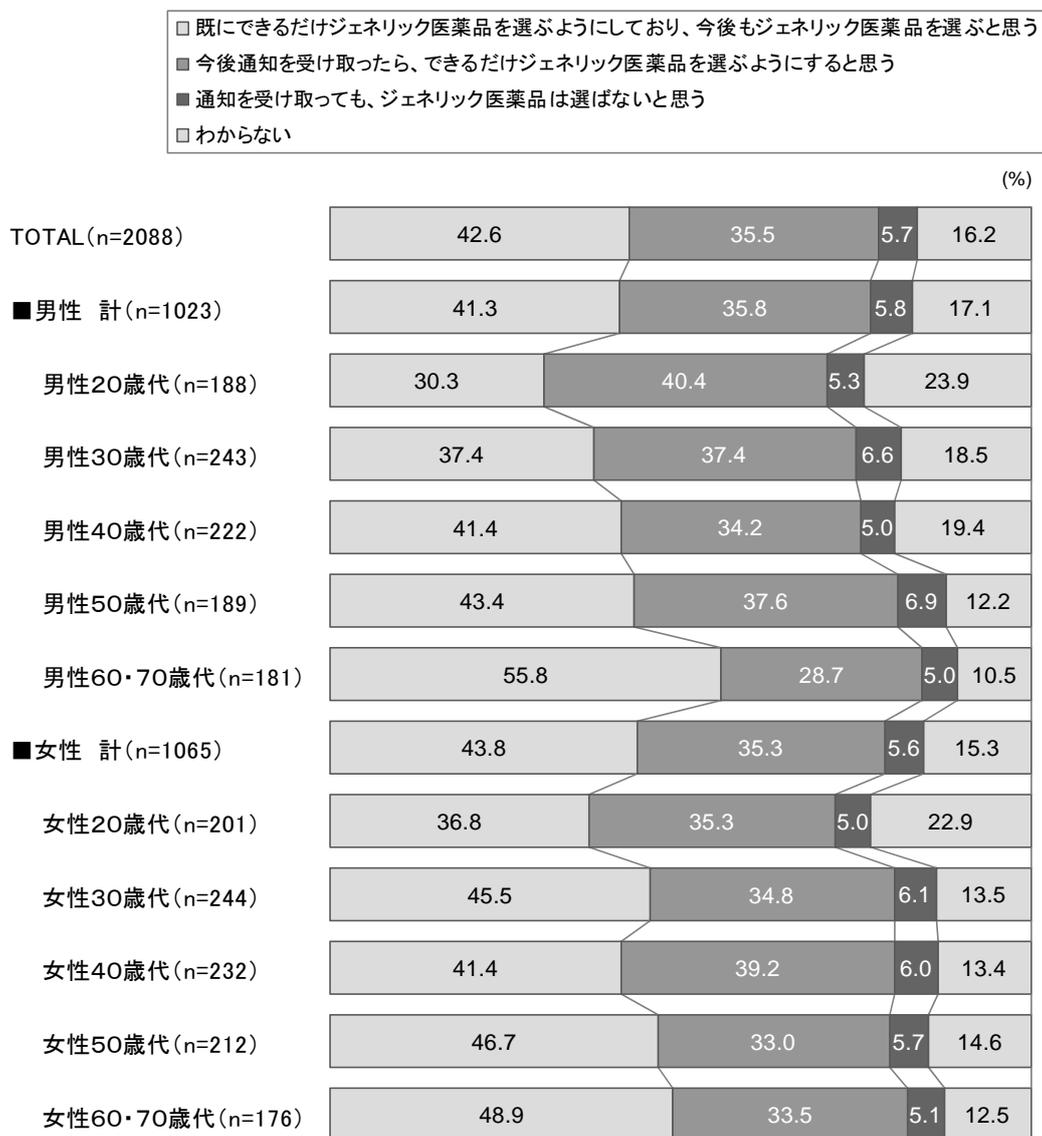
### 3. 2. 5 今後のジェネリック医薬品の利用意向（問8）

問8 今後あなたがジェネリック医薬品への切り替えを促す通知を受け取ったとしたら、先発医薬品とジェネリック医薬品のどちらを選択すると思いますか。（回答は1つ）

今後のジェネリック医薬品の利用意向について、「既にできるだけジェネリック医薬品を選ぶようにしており、今後もジェネリック医薬品を選ぶと思う」のは 42.6%、「今後通知を受け取ったら、できるだけジェネリック医薬品を選ぶようにすると思う」のは 35.5%と、8割弱（78.1%）はジェネリック医薬品の利用意向があると回答している。

性・年代別では、年代の高い方がジェネリック医薬品の利用意向が高い傾向にある。男性 60・70 歳代では半数以上（55.8%）が既に切り替えており、3割弱（28.7%）は「今後通知を受け取ったら、できるだけジェネリック医薬品を選ぶようにすると思う」と回答している。

問8 今後のジェネリック医薬品の利用意向



3. 2. 6 生活習慣病予防・健康維持のための取り組み（問9）

問9 次の説明をお読みのうえ、お答えください。

高血圧症などの生活習慣病の要因となる「メタボリック・シンドローム」に該当する方は、他の危険因子が重なると、自覚症状がなくても、心筋梗塞や脳卒中、あるいは糖尿病の合併症から人工透析が必要になるといった非常に重い病気になるリスクが高まります。

○メタボリック・シンドローム

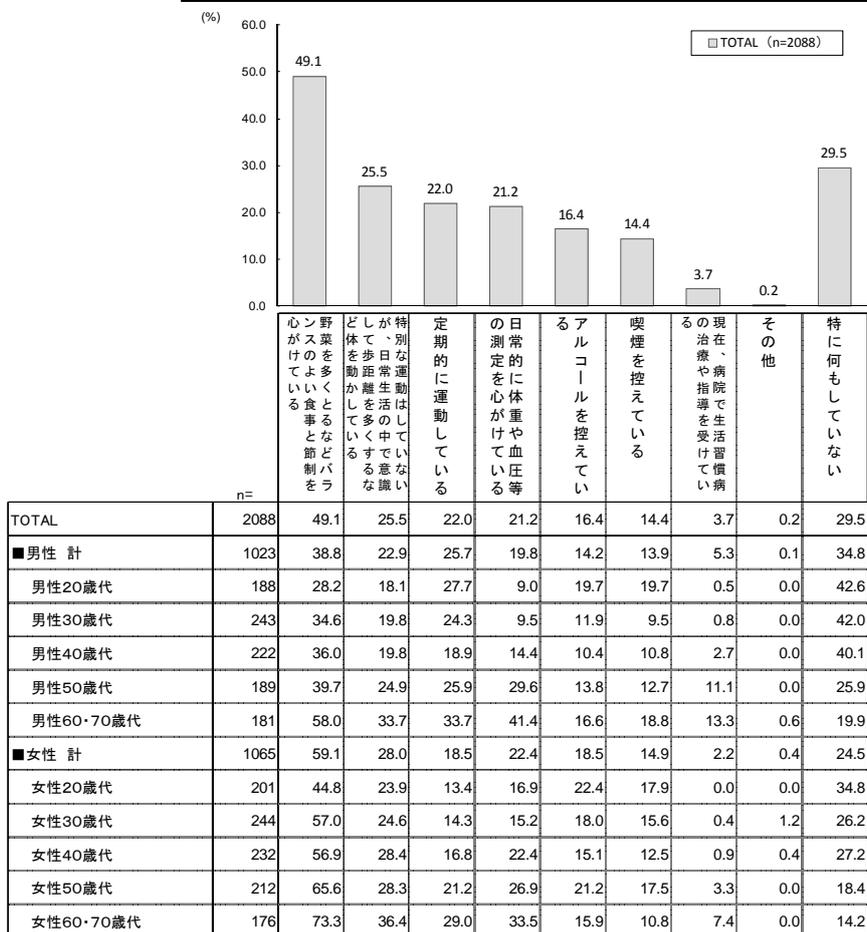
メタボリック・シンドロームとは、内臓脂肪型肥満の人が、脂質代謝異常（血液中にコレステロールや中性脂肪が増える状態）、高血圧、高血糖といった動脈硬化の危険因子を2つ以上あわせ持った状態をいいます。

こういった疾患の予防・改善、または健康維持のために、あなたは日頃からどのような取り組みを行っていますか。（回答は該当するものすべて）

生活習慣病予防・健康維持のための取り組みとしては、「野菜を多くとるなどバランスのよい食事と節制を心がけている」（49.1%）が最も多く、以下、「特別な運動はしていないが、日常生活の中で意識して歩く距離を多くするなど体を動かしている」（25.5%）、「定期的に運動している」（22.0%）、「日常的に体重や血圧等の測定を心がけている」（21.2%）と続く。「特に何もしていない」は29.5%である。

性・年代別に見ると、男性より女性の方が、また年代の高い方が生活習慣病予防・健康維持のための取り組みをしている割合が高い。特に女性60・70歳代では、8割強（85.8%）が食事や運動、体重や血圧測定等を中心に、何らかの取り組みをしていると回答している。

問9 生活習慣病予防・健康維持のための取り組み（複数回答）



3. 2. 7 生活習慣病予防・健康維持のための取り組みを始めたきっかけ（問10）

問10 問9で何らかの取り組みをしているとお答えの方にはうかがいます。

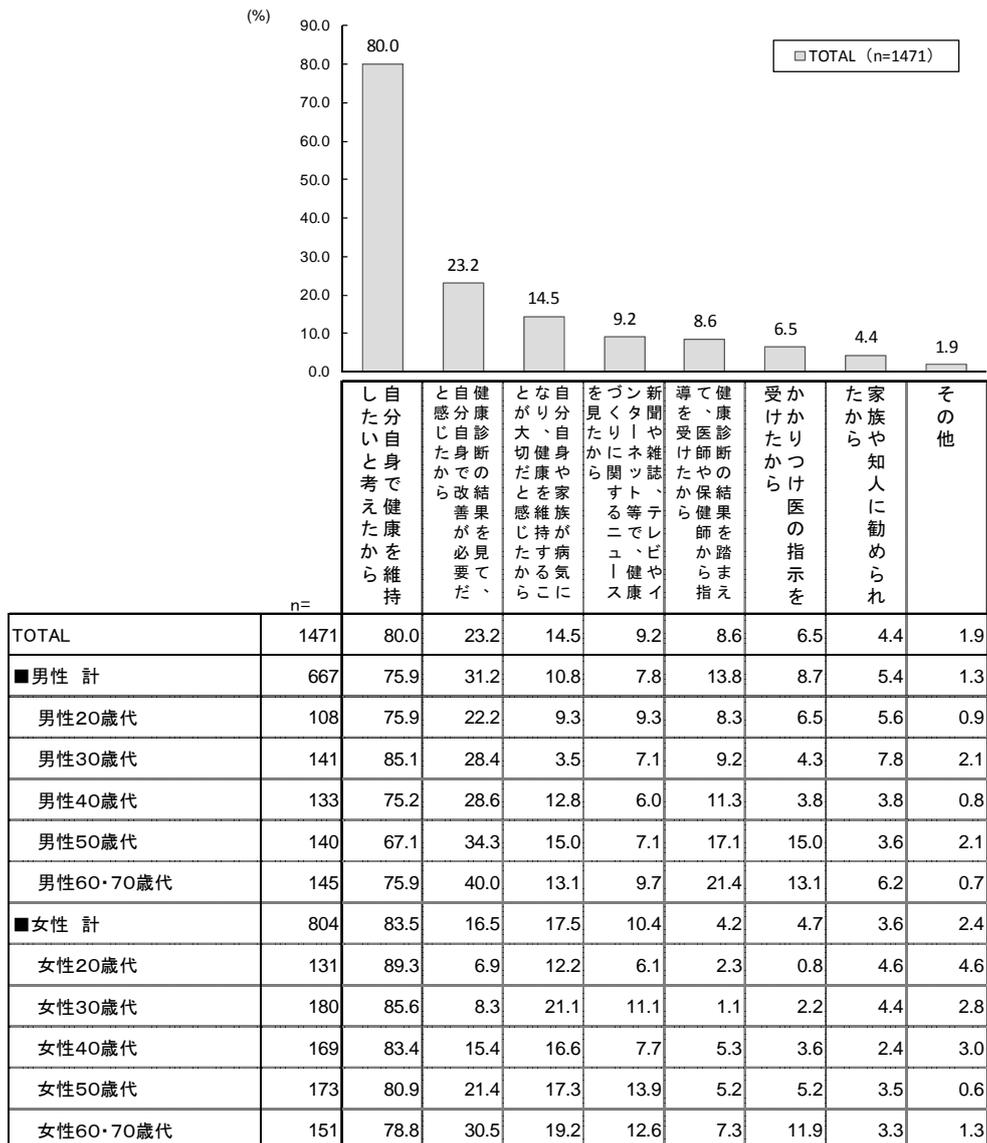
そのような取り組みを始めたきっかけは何ですか。（回答は該当するものすべて）

生活習慣病予防・健康維持のための取り組みを始めたきっかけは、「自分自身で健康を維持したいと考えたから」が80.0%と最も多く、「健康診断の結果を見て、自分自身で改善が必要だと感じたから」（23.2%）、「自分自身や家族が病気になり、健康を維持することが大切だと感じたから」（14.5%）と続く。

性・年代別に見ると、男性50歳代以上では「健康診断の結果を見て、自分自身で改善が必要だと感じたから」、「健康診断の結果を踏まえて、医師や保健師から指導を受けたから」、「かかりつけ医の指示を受けたから」を理由としてあげる割合が高い。女性20歳代では「自分自身で健康を維持したいと考えたから」（89.3%）、女性60・70歳代では「健康診断の結果を見て、自分自身で改善が必要だと感じたから」（30.5%）、「かかりつけ医の指示を受けたから」（11.9%）の割合が高くなっている。

問10 生活習慣病予防・健康維持のための取り組みを始めたきっかけ（複数回答）

【ベース：予防や健康維持の取り組みをしている人】

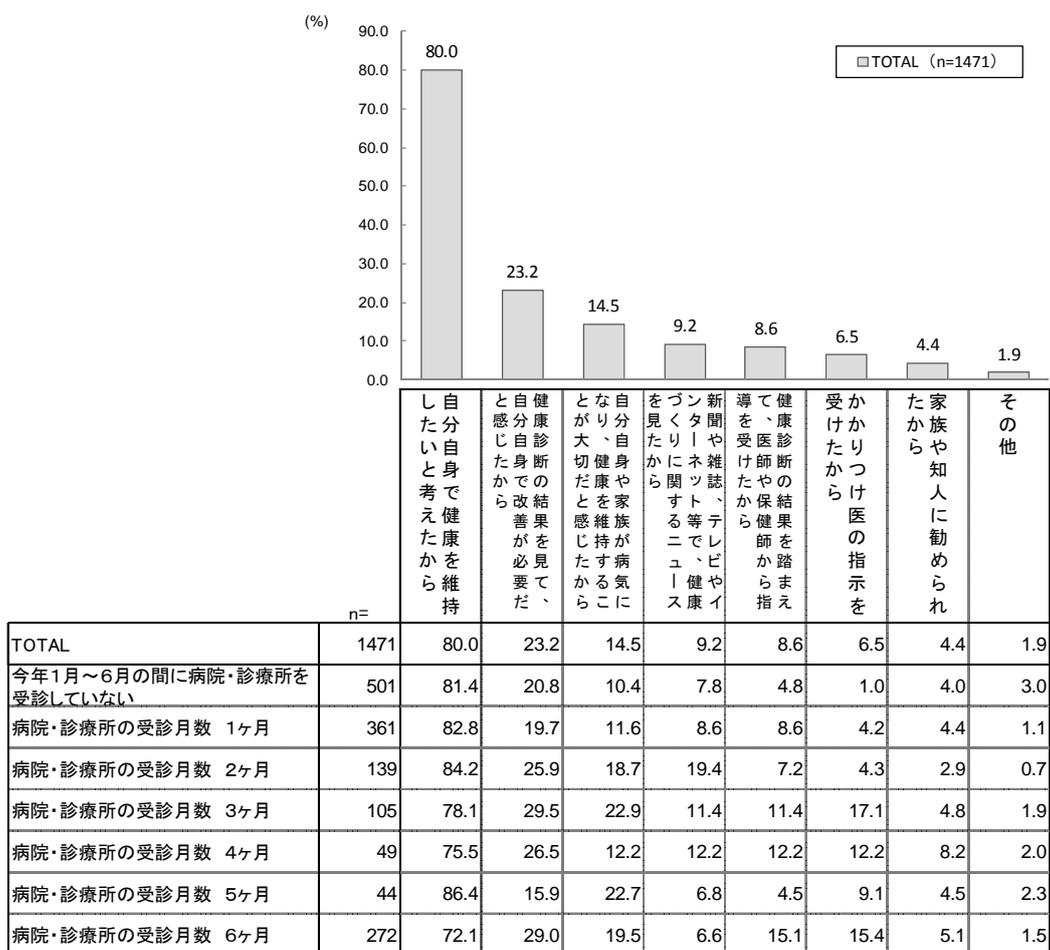


今年1月～6月の病院・診療所受診状況別に見ると、病院・診療所を毎月受診している人は「自分自身で健康を維持したいと考えたから」が7割強（72.1%）と他の層より割合が低く、「健康診断の結果を見て、自分自身で改善が必要だと感じたから」（29.0%）、「健康診断の結果を踏まえて、医師や保健師から指導を受けたから」（15.1%）、「かかりつけ医の指示を受けたから」（15.4%）といったことがきっかけになっている割合が高い。

また、毎月受診者と受診月数3ヶ月の人では「自分自身や家族が病気になり、健康を維持することが大切だと感じたから」の割合が高い。

問10 生活習慣病予防・健康維持のための取り組みを始めたきっかけ（複数回答）

【ベース：予防や健康維持の取り組みをしている人】



3. 2. 8 「生活習慣病の重症化予防」に対する評価（問12）

問12 次の説明をお読みのうえ、お答えください。

生活習慣病を放置しておく、自覚症状がなくても、心筋梗塞や脳卒中、あるいは糖尿病の合併症から人工透析が必要になるなど、日常生活を大きく損なう重篤な疾患につながって重大な結果を招くこととなります。重症化は、経済的にも大きな影響を及ぼします。人工透析になると年間500万円以上の医療費がかかると言われ、患者が負担する金額は抑えられていても、それだけ協会けんぽが負担する分、つまり加入者の保険料から支払われる金額が膨らんでいくこととなります。

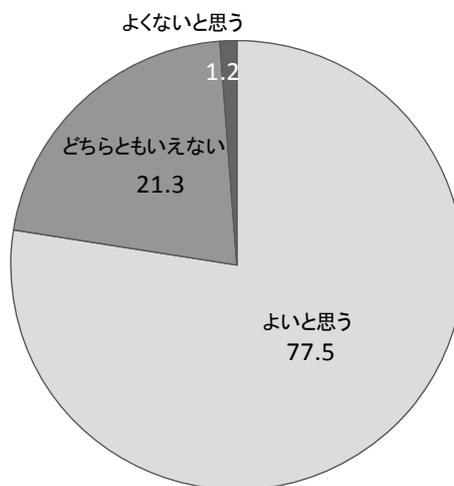
協会けんぽでは加入者の健康と生活を守るため、健診の結果、必要と認められる人に保健指導を実施し、治療が必要と判断されながら医療機関を受診していない人に受診を勧める他、健診やレセプトのデータを活用して分析を行い、その情報を還元することで生活習慣病の重症化を防ぐ事業に取り組んでいます。

この取り組みについて、あなたはどのように思いますか。（回答は1つ）

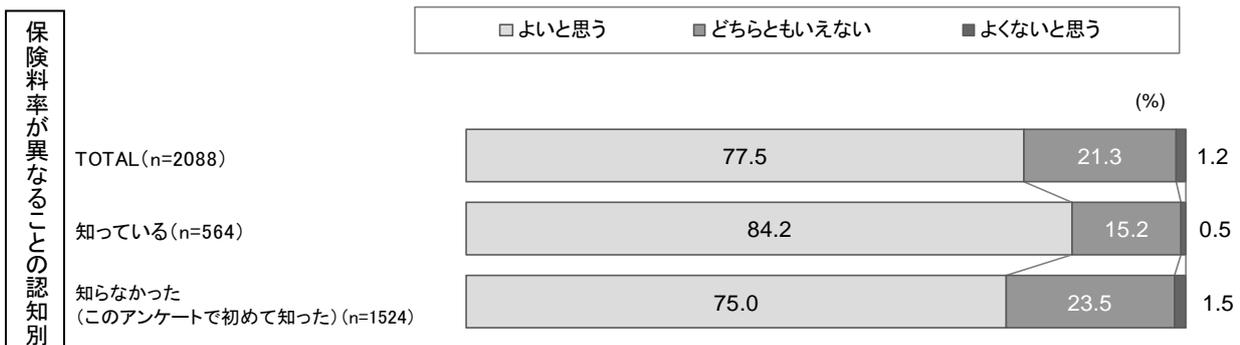
「生活習慣病の重症化予防」に対して、「よいと思う」のは77.5%であった。

加入する健康保険によって保険料率が異なることの認知状況別に見ると、保険料率が異なることを「知っている」人は8割強（84.2%）が生活習慣病の重症化予防に対して「よいと思う」と回答している。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」人では7割強（75.0%）と、よいと評価する割合がやや低い。

問12 「生活習慣病の重症化予防」に対する評価

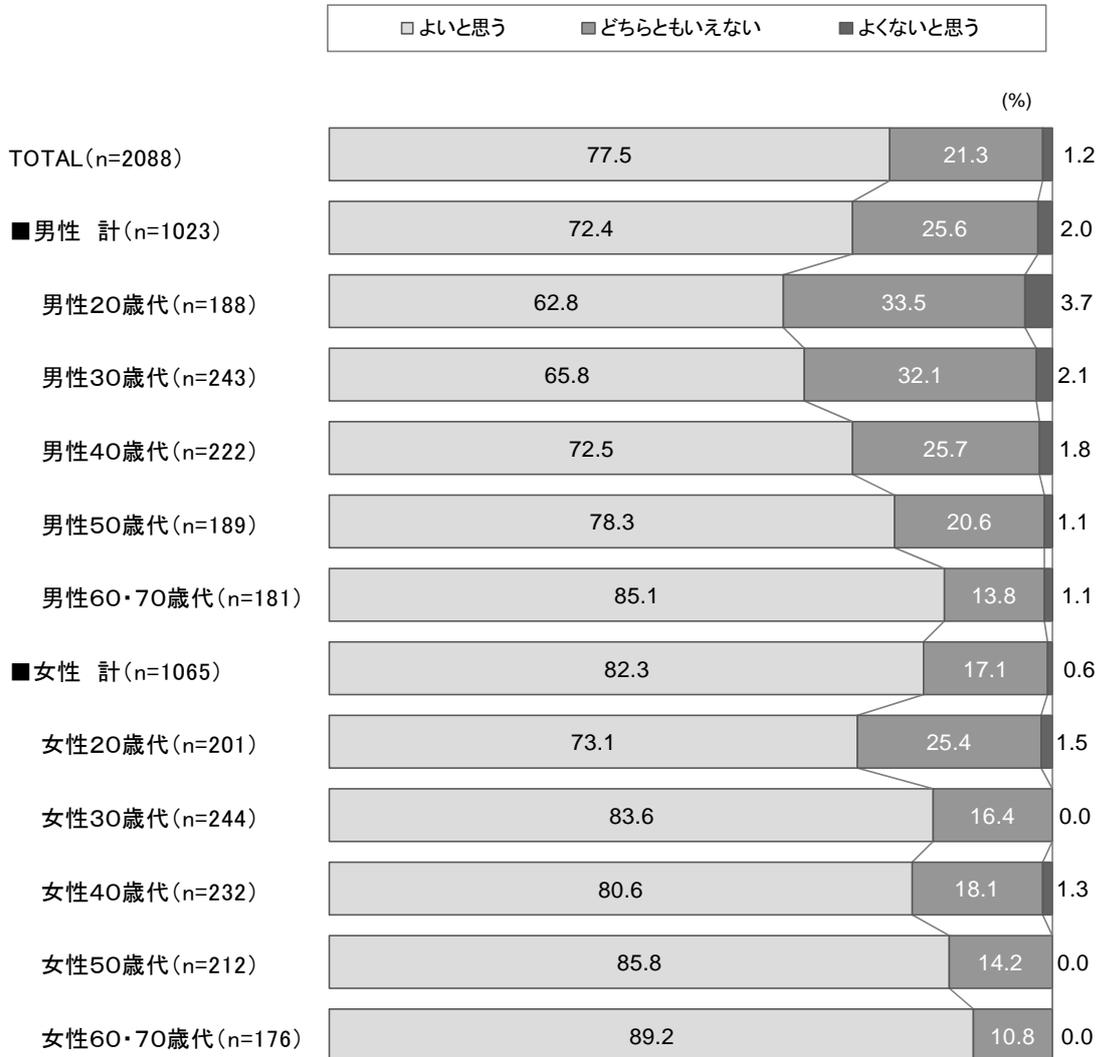


問12 「生活習慣病の重症化予防」に対する評価



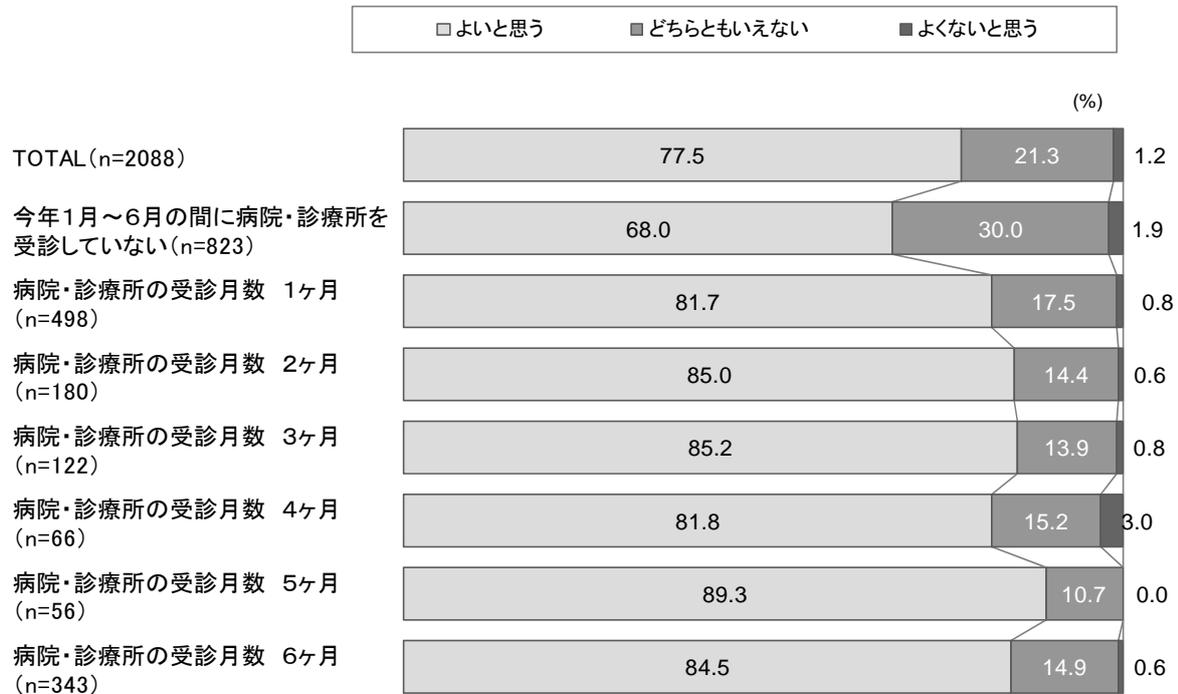
性・年代別に見ると、男性より女性の方が「よいと思う」割合が高い（男性 72.4%、女性 82.3%）。男性 20・30 歳代では「どちらともいえない」が 3 割強を占めており、他の年代より高い割合である。

問 12 「生活習慣病の重症化予防」に対する評価



今年1月～6月の病院・診療所受診状況別に見ると、病院・診療所受診者の8割以上が「よいと思う」と回答している。受診していない人では、「どちらともいえない」が3割と、受診者より高い割合となっている。

問12 「生活習慣病の重症化予防」に対する評価



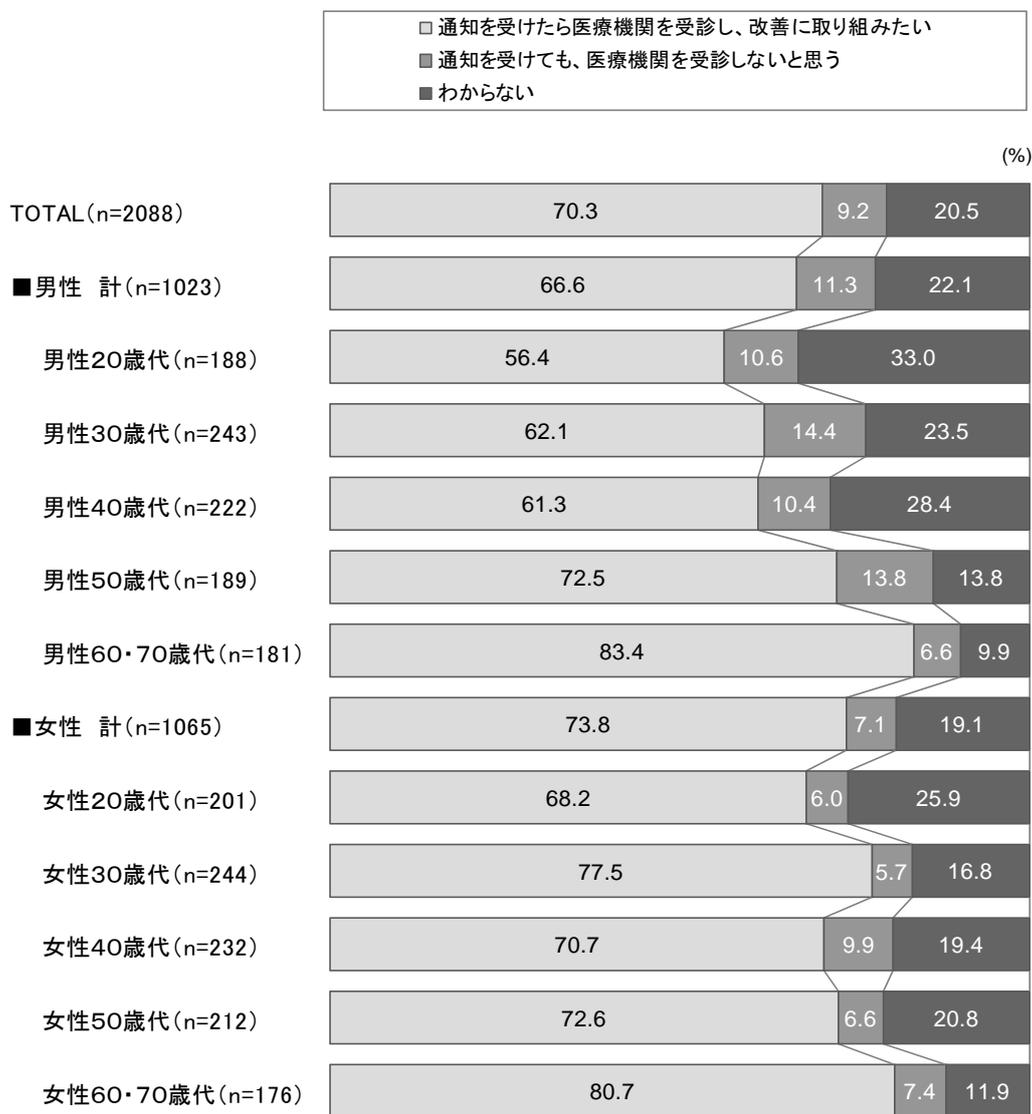
3. 2. 9 生活習慣病に関する受診勧奨通知を受けた場合の医療機関受診意向（問 13）

問 13 あなたが受診を勧める通知を受けた場合、医療機関を受診すると思いますか。（回答は1つ）

「通知を受けたら医療機関を受診し、改善に取り組みたい」と回答したのは 70.3%、「通知を受けても、医療機関を受診しないと思う」は 9.2%、「わからない」は 20.5%である。

性・年代別に見ると、男性より女性の方が、また年代の高い方が医療機関の受診意向が高い傾向にある。特に、男女とも 60・70 歳代では 8 割以上が「通知を受けたら医療機関を受診し、改善に取り組みたい」と回答している。一方、男性 20 歳代では半数（56.4%）にとどまっている。

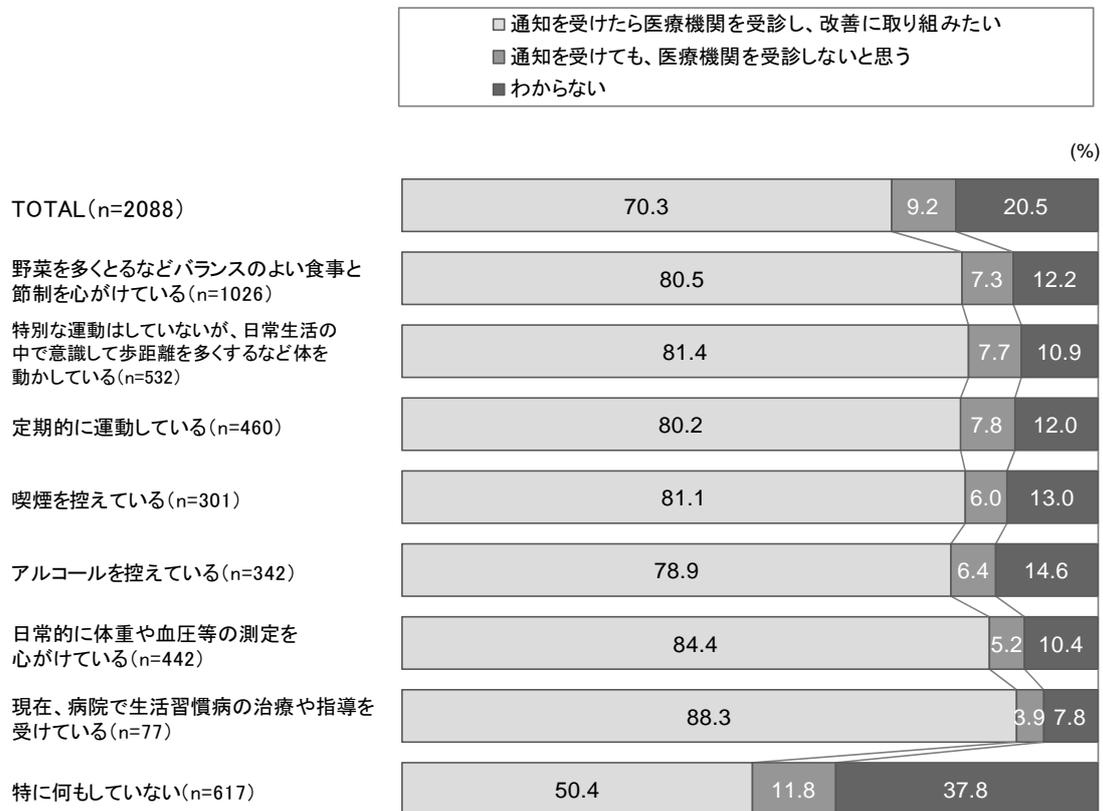
問 13 生活習慣病に関する受診勧奨通知を受けた場合の医療機関受診意向



生活習慣病予防・健康維持のための取り組み状況別に見ると、何らかの取り組みをしている人では、8～9割が「通知を受けたら医療機関を受診し、改善に取り組みたい」と回答している。

一方、「特に何もしていない」人では、「通知を受けたら医療機関を受診し、改善に取り組みたい」は半数（50.4%）にとどまっている。

問 13 生活習慣病に関する受診勧奨通知を受けた場合の医療機関受診意向



※n>30 の結果のみ表示

生活習慣病予防・健康維持のために何らかの取り組みをしている人について、その取り組みを始めたきっかけ別に見ると、「健康診断の結果を踏まえて、医師や保健師から指導を受けた」人は9割（89.7%）が「通知を受けたら医療機関を受診し、改善に取り組みたい」と回答している。

問 13 生活習慣病に関する受診勧奨通知を受けた場合の医療機関受診意向

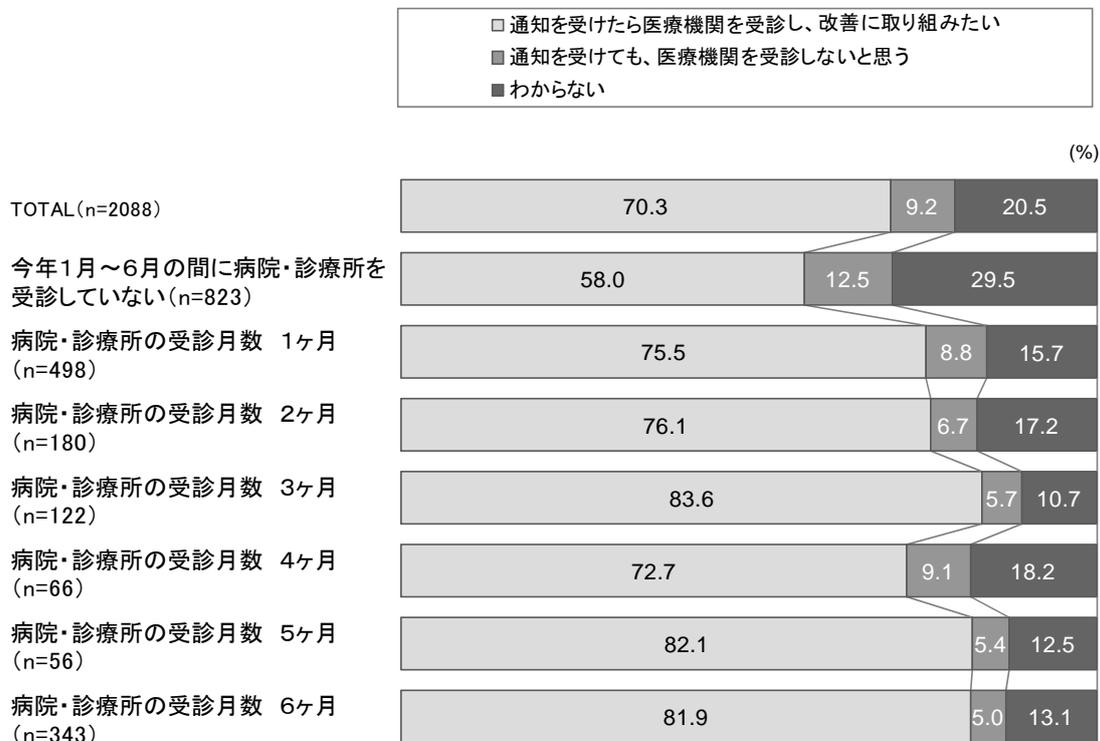
【ベース：予防や健康維持の取り組みをしている人】



※n>30の結果のみ表示

今年1月～6月の病院・診療所受診状況別に見ると、病院・診療所受診者の7～8割は「通知を受けたら医療機関を受診し、改善に取り組みたいと思う」と回答している、一方、受診していない人では受診意向があるのは6割弱（58.0%）にとどまり、「わからない」が3割（29.5%）を占める。

問 13 生活習慣病に関する受診勧奨通知を受けた場合の医療機関受診意向



3. 2. 10 「レセプト点検の徹底」に対する評価（問 11）

問 11 次の説明をお読みのうえ、お答えください。

病院・診療所での診療や薬局での調剤を受けた場合、その内容ごとに診療報酬の点数が決められています。医療機関はこれを基に協会けんぽや健康保険組合などに医療費を請求する仕組みですが、このような診療や調剤の明細を「レセプト」と言います。

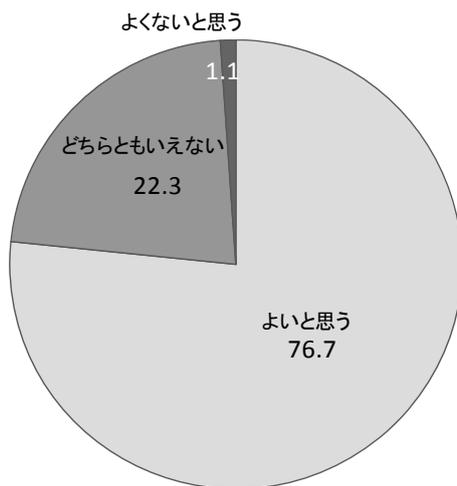
協会けんぽでは、毎年このレセプトを点検し、請求に誤りなどがいないか確認することで医療費の無駄を削減しています。これにより、年間約 300 億円の効果をあげています。

この取り組みについて、あなたはどのように感じますか。（回答は 1 つ）

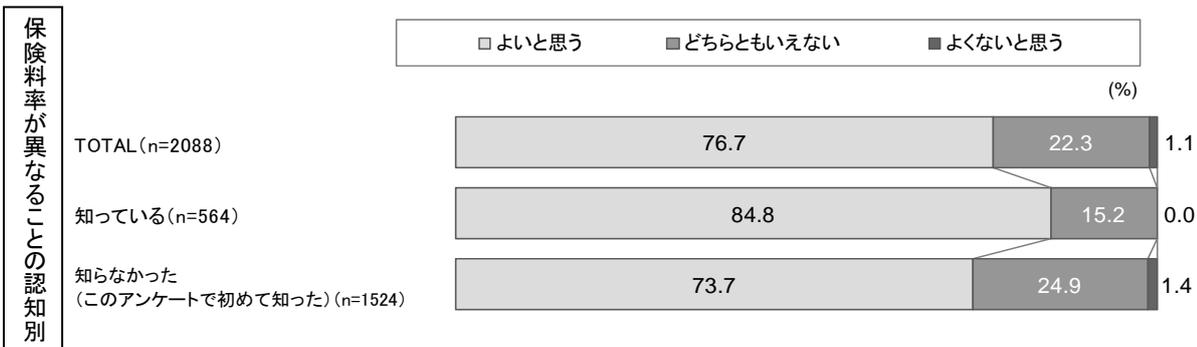
「レセプト点検の徹底」に対して、「よいと思う」のは 76.7%であった。

加入する健康保険によって保険料率が異なることの認知状況別に見ると、保険料率が異なることを「知っている」人は 8 割強（84.8%）がレセプト点検の徹底に対して「よいと思う」と回答している。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」人では 7 割強（73.7%）と、よいと評価する割合がやや低い。

問 11 「レセプト点検の徹底」に対する評価

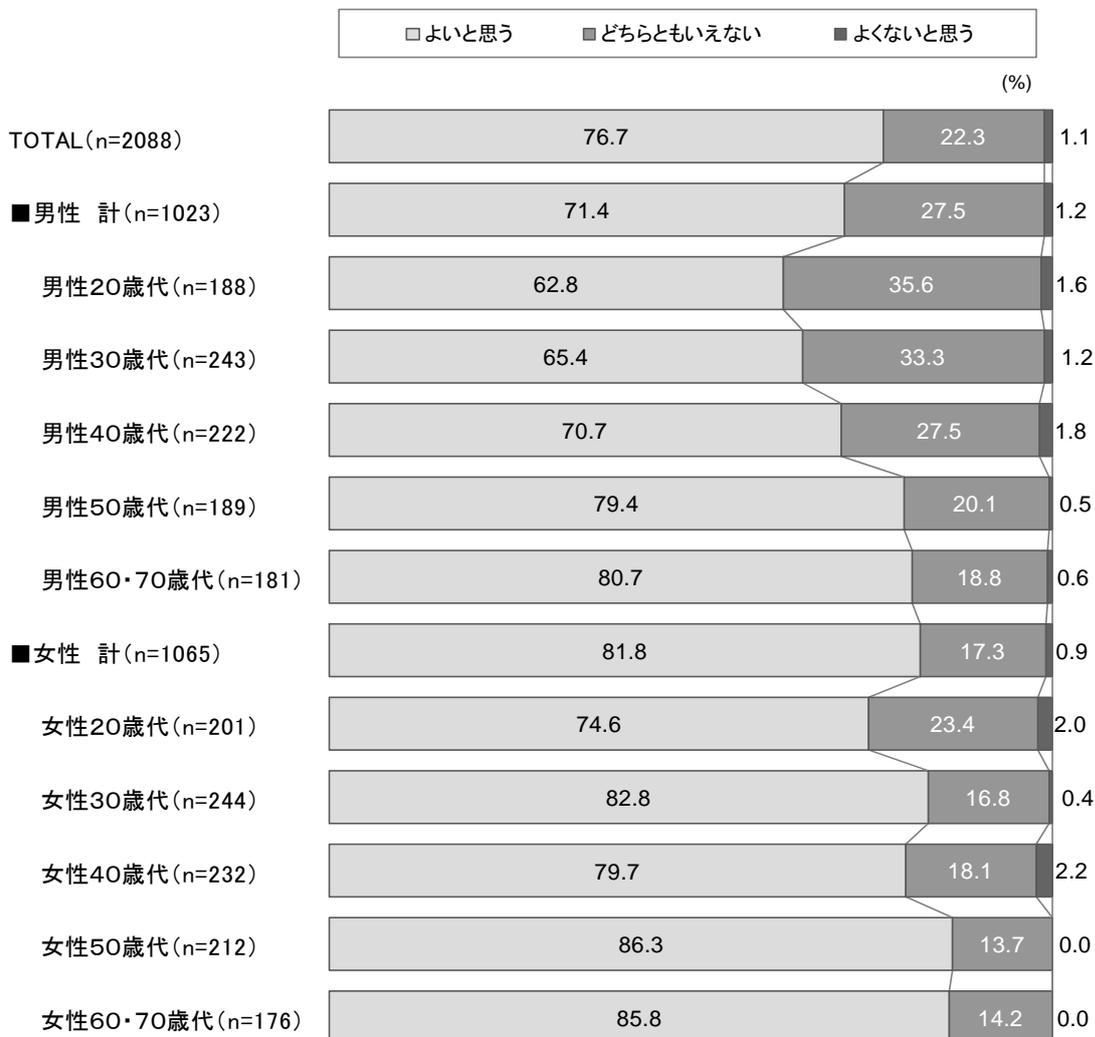


問 11 「レセプト点検の徹底」に対する評価



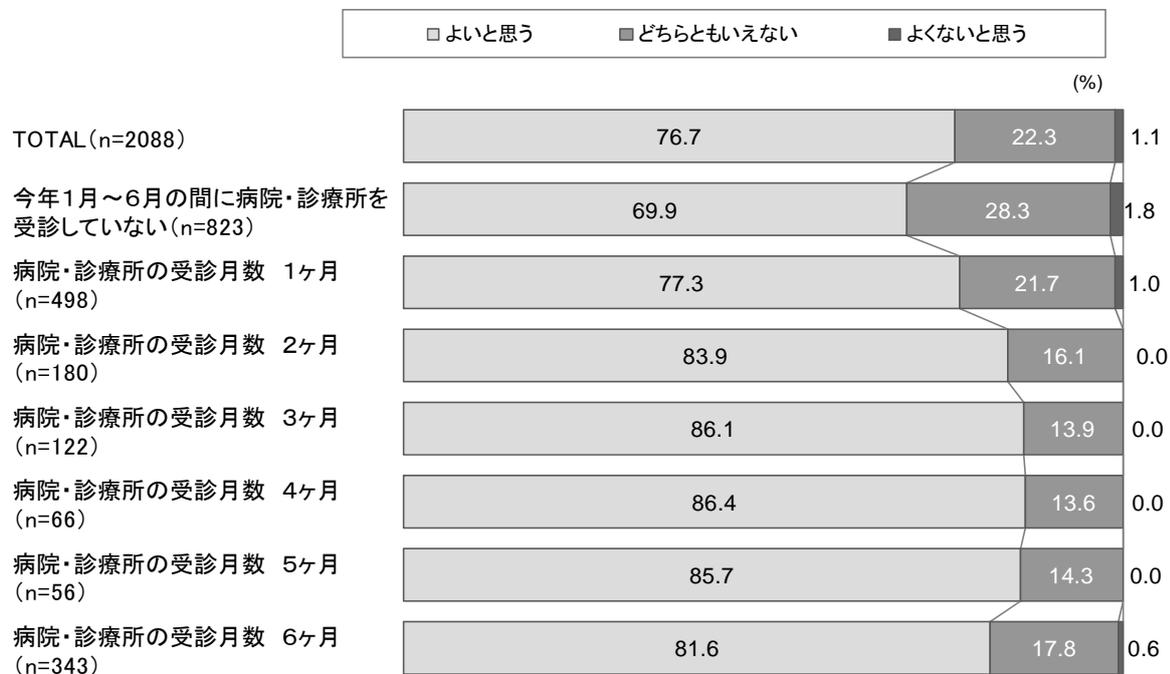
性・年代別に見ると、男性より女性の方が「よいと思う」割合が高い（男性 71.4%、女性 81.8%）。男性 20・30 歳代では「どちらともいえない」が 3 割強を占めており、他の年代より高い割合である。

問 11 「レセプト点検の徹底」に対する評価



今年1月～6月の病院・診療所受診状況別に見ると、2ヶ月以上の受診者では「よいと思う」が8割以上を占めている。一方、受診していない人では「どちらともいえない」が3割弱（28.3%）と、受診者に比べ高い割合となっている。

問11 「レセプト点検の徹底」に対する評価



3. 2. 11 「扶養家族の再確認」に対する評価（問 14）

問 14 次の説明をお読みのうえ、お答えください。

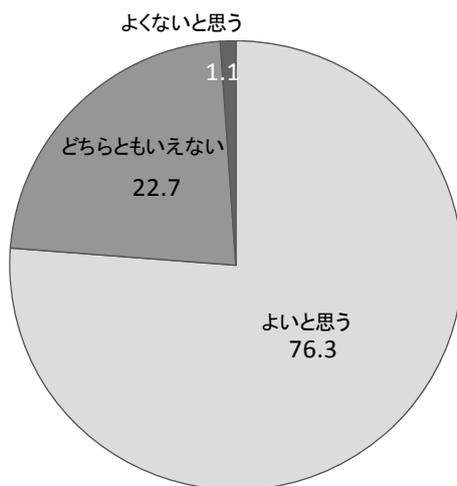
協会けんぽでは事業主の協力を得て、加入者のご家族が被扶養者の条件に該当しているかどうかの再確認を毎年行っています。加入者の人数は、高齢者医療への負担金算出に関係するため、「就職して扶養ではなくなったが届出を提出していなかった」など、被扶養者要件に当てはまらない方が残っていると、その分だけ負担金が増え、結果として保険料の上昇につながってしまうこととなります。適切な手続きを促すことで、大切な保険料が適切に給付に使えるよう努めており、年間約 30 数億円の削減につながっています。

この取り組みについて、あなたはどのように思いますか。（回答は 1 つ）

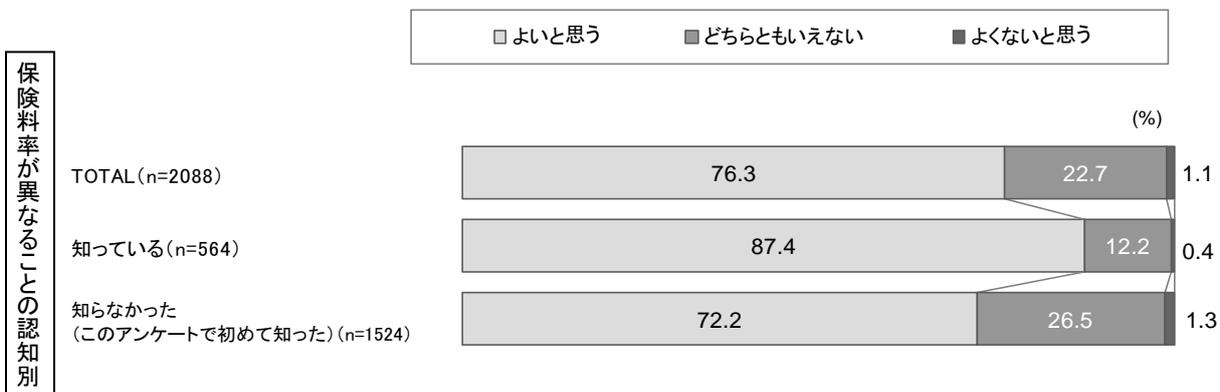
「扶養家族の再確認」に対して、「よいと思う」のは 76.3%であった。

加入する健康保険によって保険料率が異なることの認知状況別に見ると、保険料率が異なることを「知っている」人の 9 割弱（87.4%）は「よいと思う」と回答している。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」人では 7 割強（72.2%）と、よいと評価する割合がやや低い。

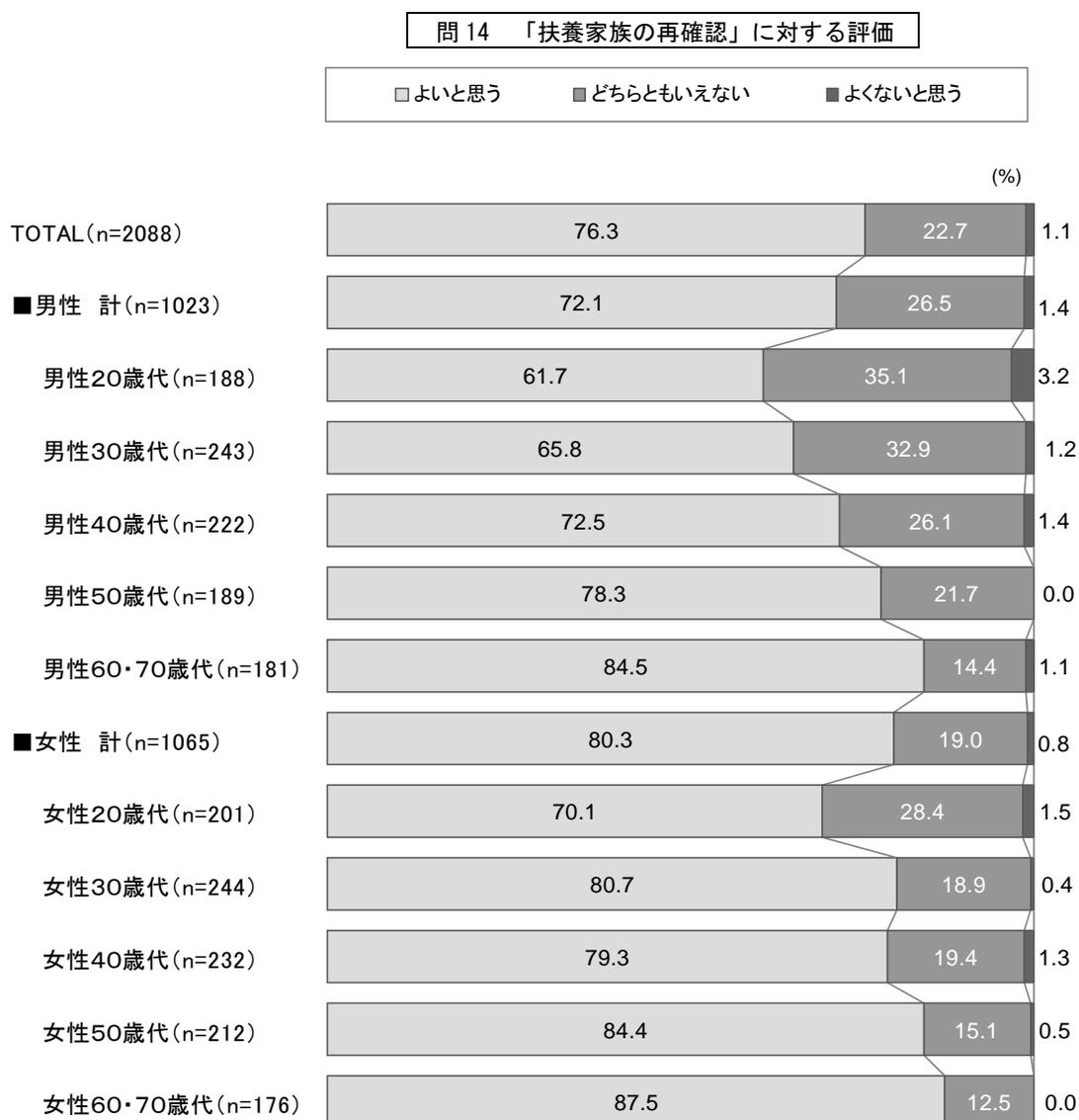
問 14 「扶養家族の再確認」に対する評価



問 14 「扶養家族の再確認」に対する評価



性・年代別に見ると、男性より女性の方が「よいと思う」割合が高い（男性 72.1%、女性 80.3%）。  
 男性 20・30 歳代では「どちらともいえない」が 3 割強を占めており、他の年代より高い割合である。



### 3. 3 保険料負担についての考え方

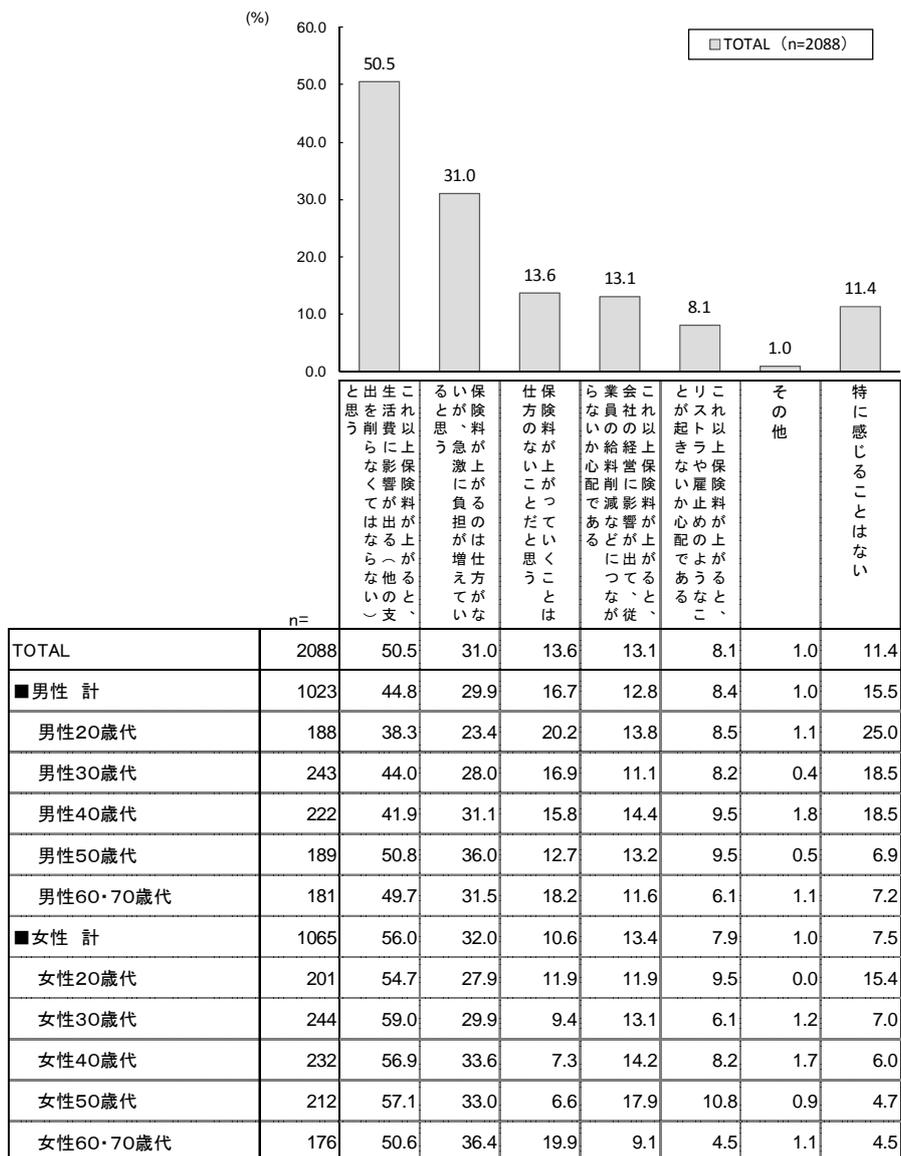
#### 3. 3. 1 協会けんぽの保険料率負担が増加していることに対する意見（問 15）

問 15 協会けんぽの平均保険料率（全国平均）は、設立時の 8.2%から、9.3%（平成 22 年度）、9.5%（平成 23 年度）と引き上がり、平成 24 年度に 10%に達して以降は据え置かれています。  
 あなたは、保険料率の負担が増えていることについてどのように感じますか。（回答は該当するものすべて）

協会けんぽの保険料率負担が増加していることについては、「これ以上保険料が上がると、生活費に影響が出る（他の支出を削らなくてはならない）と思う」が 50.5%、「保険料が上がるのは仕方がないが、急激に負担が増えていると思う」が 31.0%である。

性・年代別に見ると、女性より男性の方が「保険料が上がっていくことは仕方のないことだと思う」（16.7%）と回答する割合が高い。一方、女性は「これ以上保険料が上がると、生活費に影響が出る（他の支出を削らなくてはならない）と思う」の割合が高く、各年代とも半数以上を占めている。

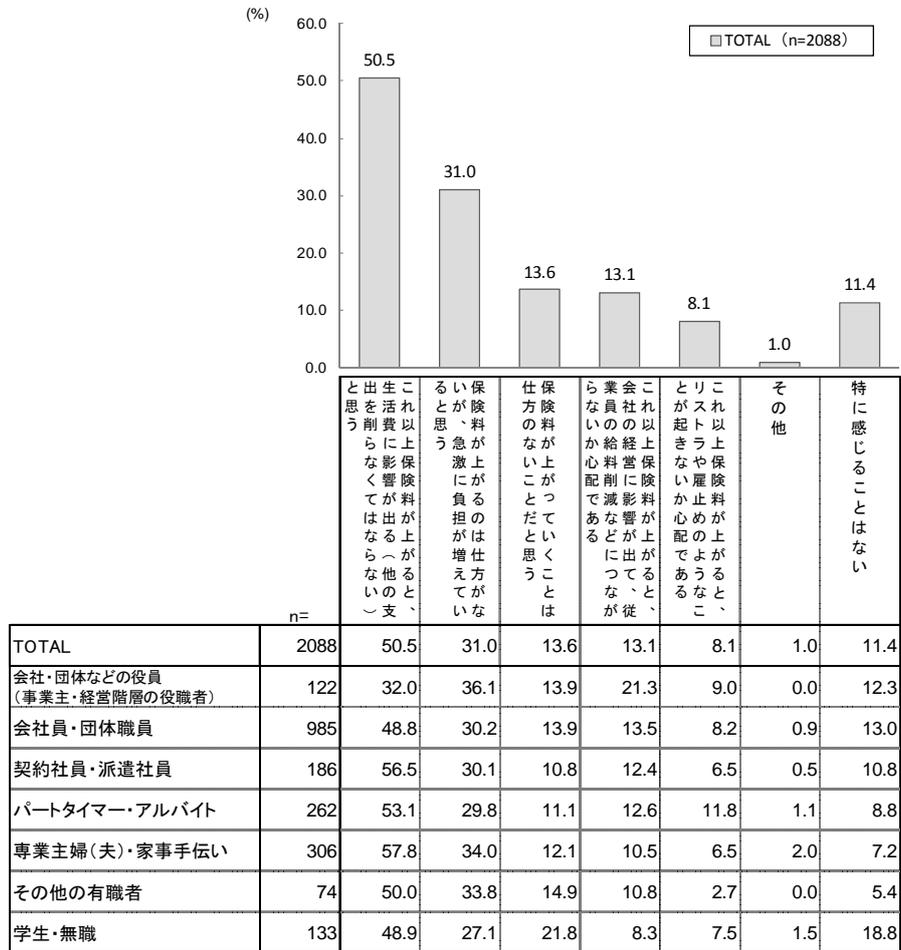
問 15 協会けんぽの保険料率負担が増加していることに対する意見（複数回答）



職業別に見ると、「会社・団体などの役員（事業主・経営階層の役職者）」では「これ以上保険料が上がると、会社の経営に影響が出て、従業員の給料削減などにつながらないか心配である」が2割（21.3%）と他の職業より高い。

また、「専業主婦（夫）・家事手伝い」では「これ以上保険料が上がると、生活費に影響が出る（他の支出を削らなくてはならない）と思う」が6割弱（57.8%）と高い。

問 15 協会けんぽの保険料率負担が増加していることに対する意見（複数回答）

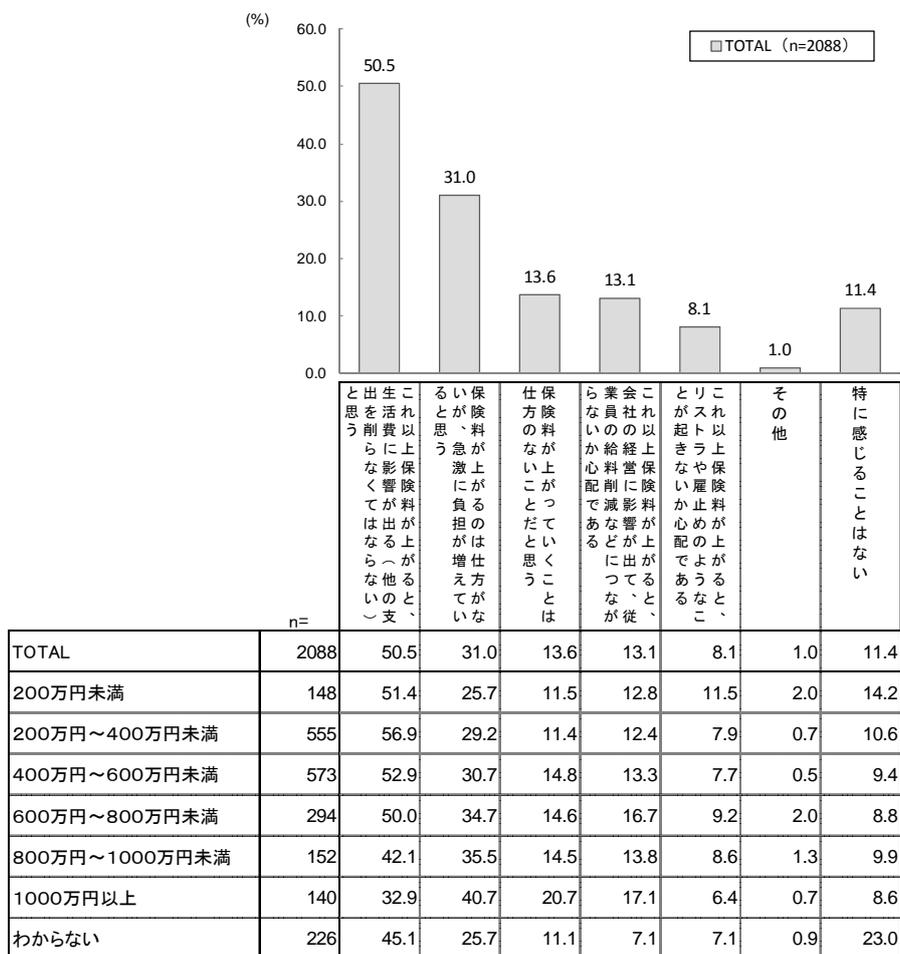


※n>30の結果のみ表示

世帯年収別に見ると、年収が低い世帯では「これ以上保険料が上がると、生活費に影響が出る（他の支出を削らなくてはならない）と思う」割合が高く、特に「200万円～400万円未満」世帯では6割弱（56.9%）を占める。

「1000万円以上」世帯では「これ以上保険料が上がると、生活費に影響が出る（他の支出を削らなくてはならない）と思う」が3割強（32.9%）と低い一方、「保険料上がるのは仕方がないが、急激に負担が増えていると思う」（40.7%）、「保険料が上がっていくことは仕方がないことだと思う」（20.7%）の割合が他の世帯より高い。なお、「保険料上がるのは仕方がないが、急激に負担が増えていると思う」は、世帯年収が高くなるにつれて回答割合が高くなる傾向が見られる。

問 15 協会けんぽの保険料率負担が増加していることに対する意見（複数回答）

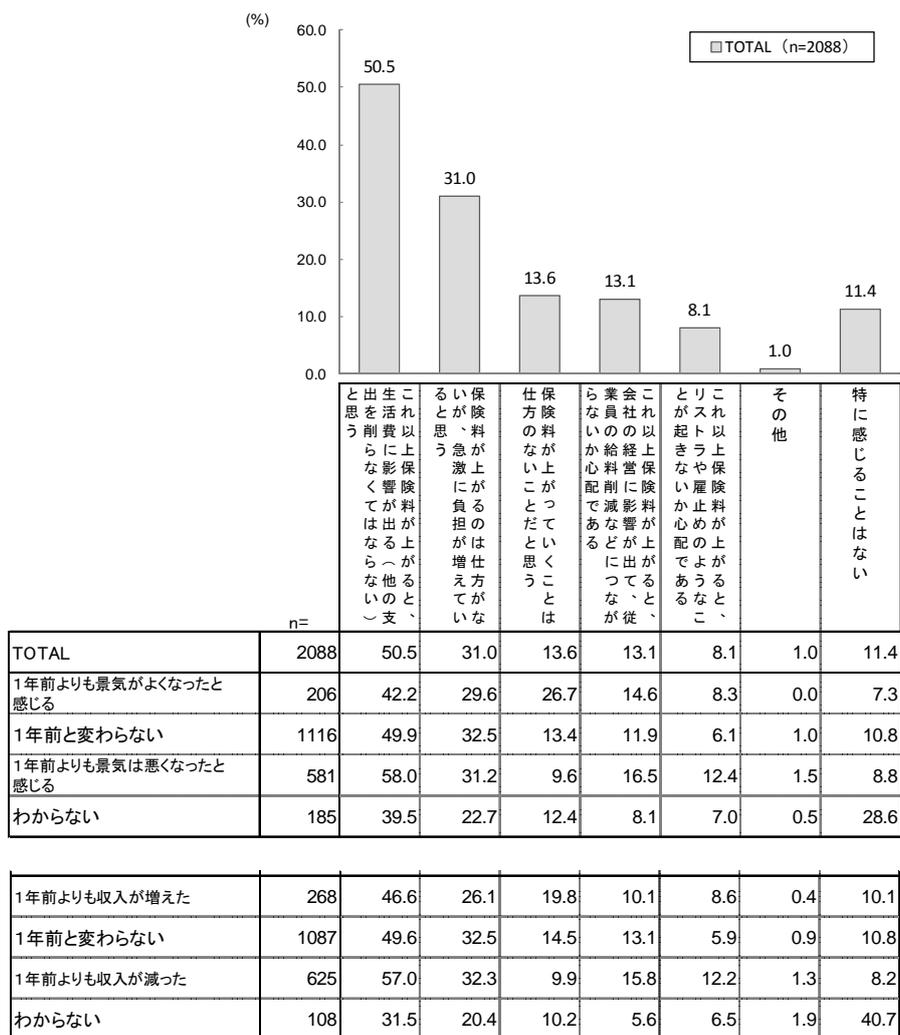


景況感別に見ると、「1年前よりも景気がよくなったと感じる」人は、「保険料が上がっていくことは仕方のないことだと思う」(26.7%)が他の層より高く、「これ以上保険料が上がると、生活費に影響が出る(他の支出を削らなくてはならない)と思う」(42.2%)が低い。

一方、「1年前よりも景気は悪くなったと感じる」人は、「これ以上保険料が上がると、生活費に影響が出る(他の支出を削らなくてはならない)と思う」(58.0%)、「これ以上保険料が上がると、会社の経営に影響が出て、従業員の給料削減などにつながる心配である」(16.5%)、「これ以上保険料が上がると、リストラや雇止めのようなことが起きないか心配である」(12.4%)といった心配を、他の層より強く感じている。

この1年間の世帯収入の変化別に見ても同様の傾向で、「1年前よりも収入が増えた」人は「保険料が上がっていくことは仕方のないことだと思う」(19.8%)が高い。「1年前よりも収入が減った」人は、「これ以上保険料が上がると、生活費に影響が出る(他の支出を削らなくてはならない)と思う」(57.0%)、「これ以上保険料が上がると、会社の経営に影響が出て、従業員の給料削減などにつながる心配である」(15.8%)、「これ以上保険料が上がると、リストラや雇止めのようなことが起きないか心配である」(12.2%)の回答割合が高くなっている。

問 15 協会けんぽの保険料率負担が増加していることに対する意見（複数回答）



3. 3. 2 加入している健康保険によって保険料率が異なることの認知（問 16）

問 16 次の説明をお読みのうえ、お答えください。

保険料率（※事業主及び被保険者負担の合計分）は、下表に例示したように健康保険（医療保険）の運営主体ごとに異なっています。

主な健康保険の種類 （運営主体の数）	協会けんぽ （1）	健保組合 （1,410）	国家公務員共済組合 （20）
被保険者1人あたり 標準報酬総額 （平成24年度）	370万円	537万円	609万円
保険料率	10.0% （平成26年度全国平均）	8.861% （平成26年度予算平均）	8.20% （平成25年度平均）
月額給与30万円の場合、 事業主と被保険者が納める 月額保険料の合計は	30,000円	26,583円	24,600円

一人あたりにかかる医療費は同程度であるため、被保険者の給与水準の平均が低い健康保険では、積立金がなければ加入者の医療費をまかなえるまで保険料率を引き上げ、収支が合うようにしています。

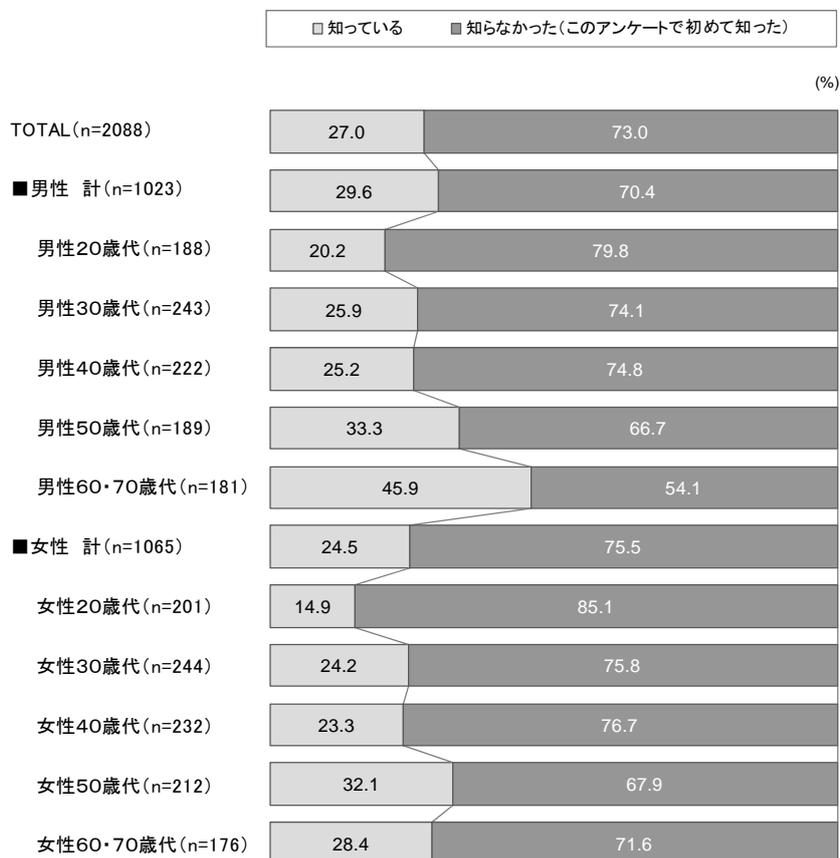
あなたは、加入している健康保険の運営主体によって保険料率が異なることをご存知ですか。

（回答は1つ）

加入している健康保険によって保険料率が異なることを知っていたのは27.0%、73.0%は「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」と回答している。

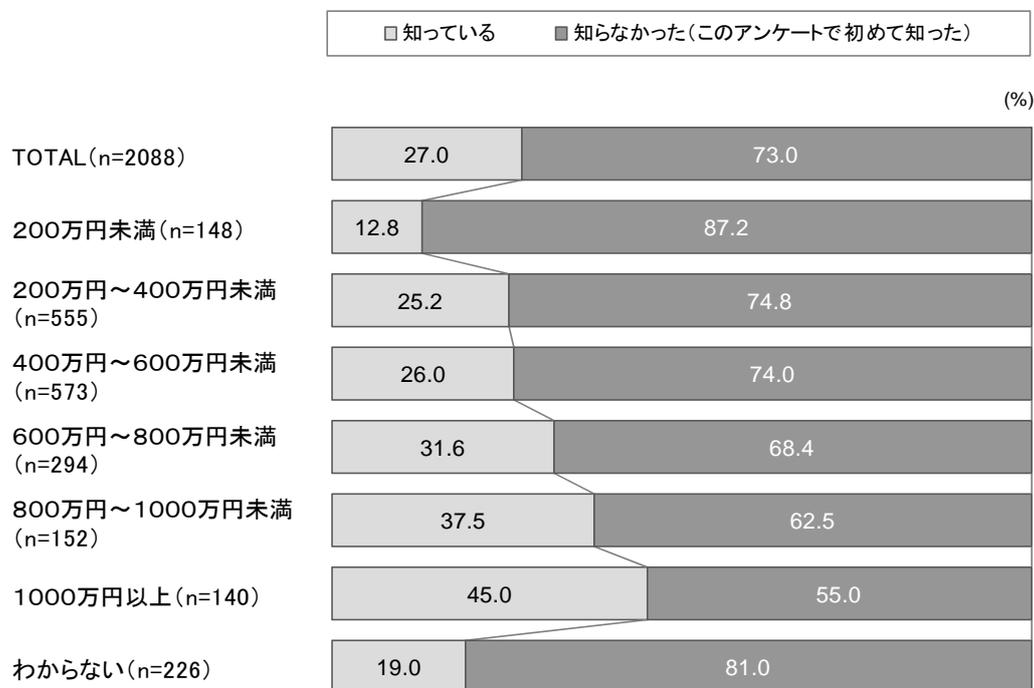
性・年代別に見ると、男性60・70歳代の認知率が最も高く、4割強（45.9%）が「知っている」と回答している。

問 16 加入している健康保険によって保険料率が異なることの認知



世帯年収別に見ると、年収が高いほど加入している健康保険によって保険料率が異なることを知っている傾向にあり、「200万円未満」世帯では1割強（12.8%）の認知率であるのに対し、「800万円～1000万円未満」世帯では4割強（37.5%）、「1000万円以上」世帯では4割強（45.0%）の認知率である。

問 16 加入している健康保険によって保険料率が異なることの認知



3. 3. 3 保険料率の格差に対する考え（問17）

問17 次の説明をお読みのうえ、お答えください。

協会けんぽには中小企業の加入者が多いため、他の多くの健康保険組合と比べると財政基盤が脆弱であり、保険料率に大きな格差が生じているのが現状です。この格差を埋める目的で、協会けんぽの加入者の医療費として必要な費用には国の負担による補助金（国庫補助）が入っています。しかしながら、現在の国庫補助の割合ではその格差を埋め切れていません。

【加入者の医療費として必要な費用に対する国庫補助の割合】

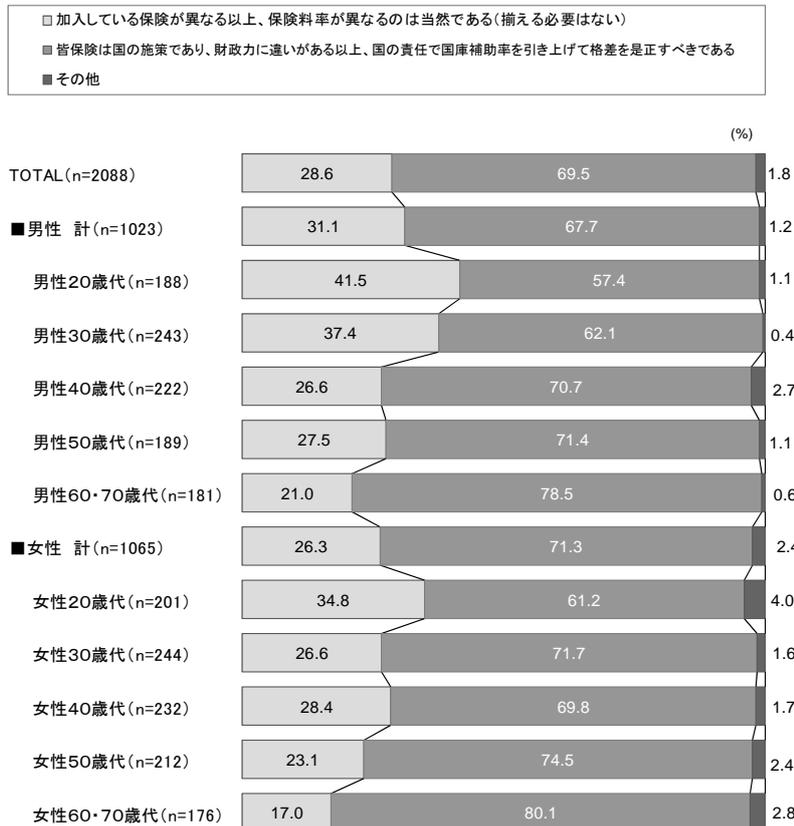
法律で定められた国庫補助の割合	13～20%
現在の国庫補助の割合	16.4% ※今年度までの措置
平成27年度以降の国庫補助の割合	不明

あなたは、この保険料率の格差についてどう考えますか。（回答は1つ）

保険料率の格差については、「皆保険は国の施策であり、財政力に違いがある以上、国の責任で国庫補助率を引き上げて格差を是正すべきである」が69.5%、「加入している保険が異なる以上、保険料率が異なるのは当然である（揃える必要はない）」が28.6%である。

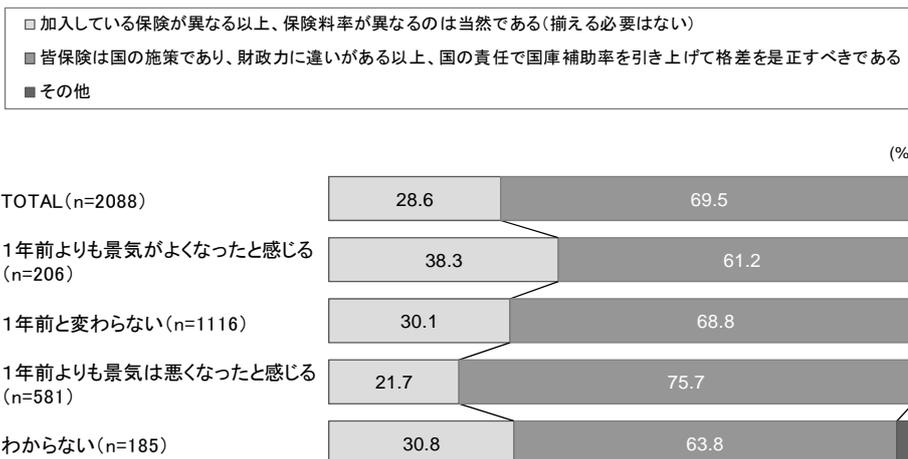
性・年代別に見ると、「加入している保険が異なる以上、保険料率が異なるのは当然である（揃える必要はない）」と考える割合は若い年代の方でより高く、男性20歳代では4割（41.5%）、30歳代では4割弱（37.4%）、女性20歳代では3割強（34.8%）となっている。

問17 保険料率の格差に対する考え



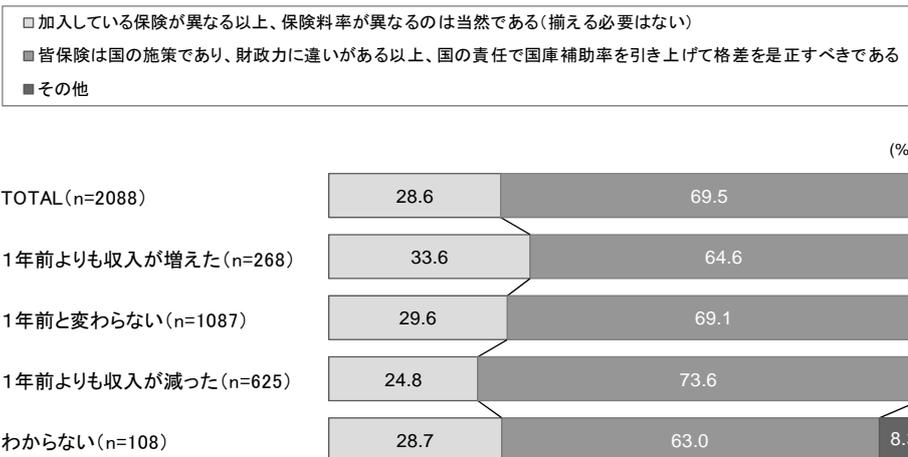
景況感別に見ると、「1年前よりも景気がよくなったと感じる」人の4割弱（38.3%）は「加入している保険が異なる以上、保険料率が異なるのは当然である（揃える必要はない）」と回答している。一方、「1年前よりも景気は悪くなったと感じる」人では「加入している保険が異なる以上、保険料率が異なるのは当然である（揃える必要はない）」は2割（21.7%）にとどまり、「皆保険は国の施策であり、財政力に違いがある以上、国の責任で国庫補助率を引き上げて格差を是正すべきである」が7割強（75.7%）を占めている。

問17 保険料率の格差に対する考え



この1年間の世帯収入の変化別に見ても同様の傾向であり、「1年前よりも収入が増えた」人は「加入している保険が異なる以上、保険料率が異なるのは当然である（揃える必要はない）」（33.6%）と回答する割合が他の層より高いのに対し、「1年前よりも収入が減った」人は「皆保険は国の施策であり、財政力に違いがある以上、国の責任で国庫補助率を引き上げて格差を是正すべきである」（73.6%）と回答する割合が高くなっている。

問17 保険料率の格差に対する考え



### 3. 4 医療費負担のあり方

#### 3. 4. 1 医療費の伸びを抑えるために必要な取り組み（問18）

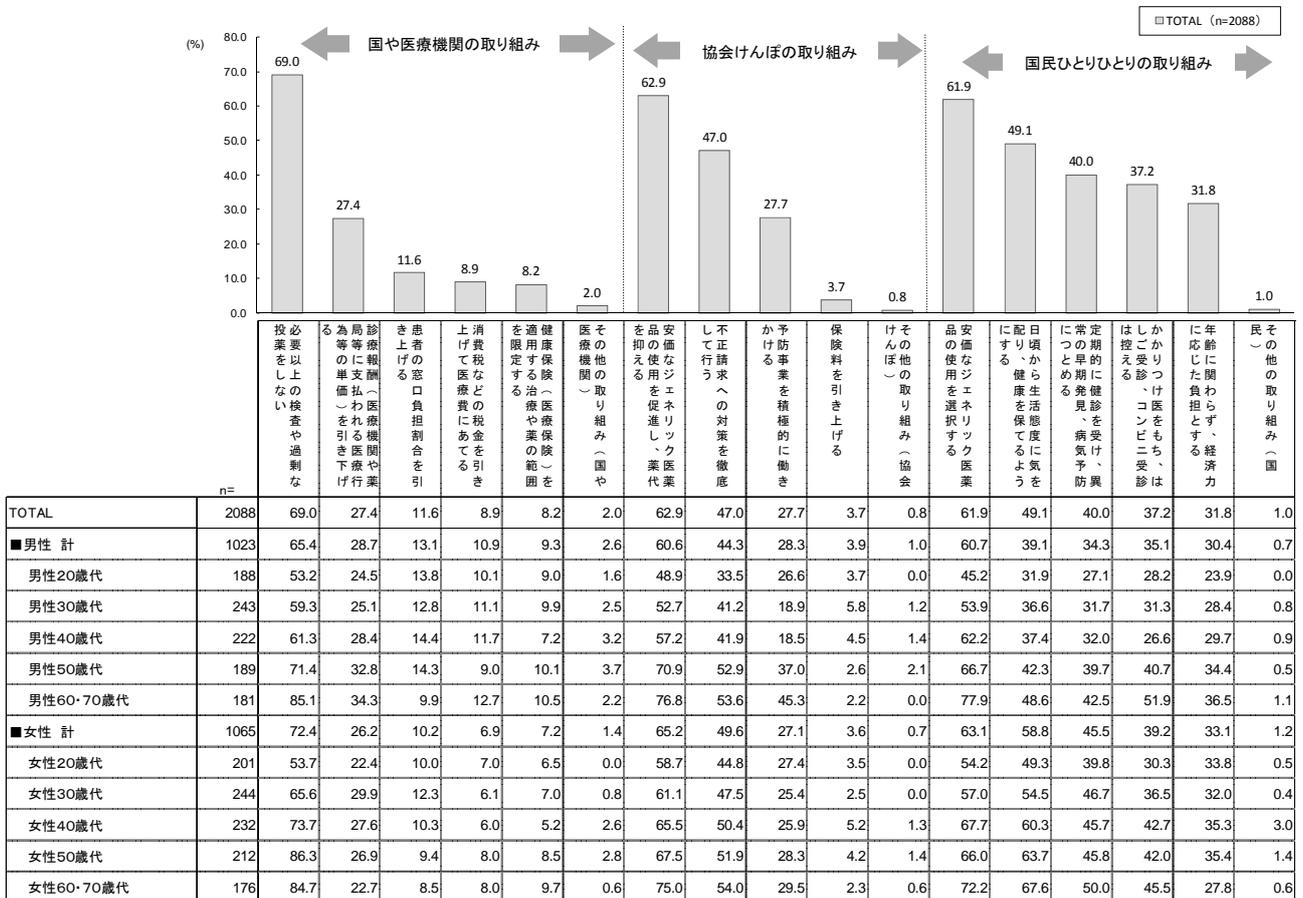
問18 増大する医療費の伸びを抑えるために、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。  
（回答は該当するものすべて）

国や医療機関の取り組みとしては「必要以上の検査や過剰な投薬をしない」（69.0%）をあげる割合が最も高い。協会けんぽの取り組みとしては「安価なジェネリック医薬品の使用を促進し、薬代を抑える」（62.9%）、国民ひとりひとりの取り組みについても「安価なジェネリック医薬品の使用を促進する」（61.9%）とジェネリック医薬品の使用促進が必要という意見がそれぞれ6割である。

性・年代別に見ると、女性は国民ひとりひとりの取り組みとして「日頃から生活態度に気を配り、健康を保てるようにする」という意見が多く、40歳代以上では6割を超えている。「定期的に健診を受け、異常の早期発見・病気予防につとめる」についても女性30歳代以上では5割前後と、日頃からの健康維持・管理に対する意識が男性より高いことがうかがえる。男性50歳代以上では、協会けんぽの取り組みとして「予防事業を積極的に働きかける」をあげる割合が4割前後と他の層より高い。

また、男女ともに60・70歳代では、「必要以上の検査や過剰な投薬をしない」、「安価なジェネリック医薬品の使用を促進し、薬代を抑える」、「安価なジェネリック医薬品を選択する」、「かかりつけ医をもち、はしご受診、コンビニ受診は控える」といった取り組みが必要と回答する割合が、他の年代より高い。

問18 医療費の伸びを抑えるために必要な取り組み（複数回答）

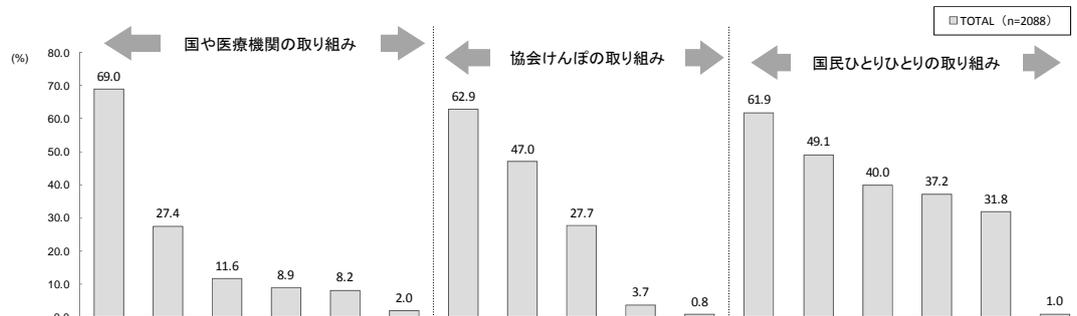


今年1月～6月の病院・診療所受診状況別に見ると、「国や医療機関の取り組み」については、受診月数が3ヶ月以上の方は「必要以上の検査や過剰な投薬をしない」が75%前後と高い割合である。また、2ヶ月受診者では「診療報酬を引き下げる」が3割強（35.6%）を占める。

「協会けんぽの取り組み」については、受診月数が2ヶ月以上の方は「安価なジェネリック医薬品の使用を促進し、薬代を抑える」が7割を超えるのに対し、未受診者と1ヶ月受診者では6割を下回る。毎月受診者は「不正請求への対策を徹底して行う」（55.7%）、3ヶ月受診者では「予防事業を積極的に働きかける」（38.5%）必要と考える割合も高い。

「国民ひとりひとりの取り組み」については、受診月数が3ヶ月以上の方では「年齢に関わらず、経済力に応じた負担とする」以外の4つの取り組みを必要だと考える割合が高くなっているのに対し、未受診者ではいずれの項目も低い割合となっている。

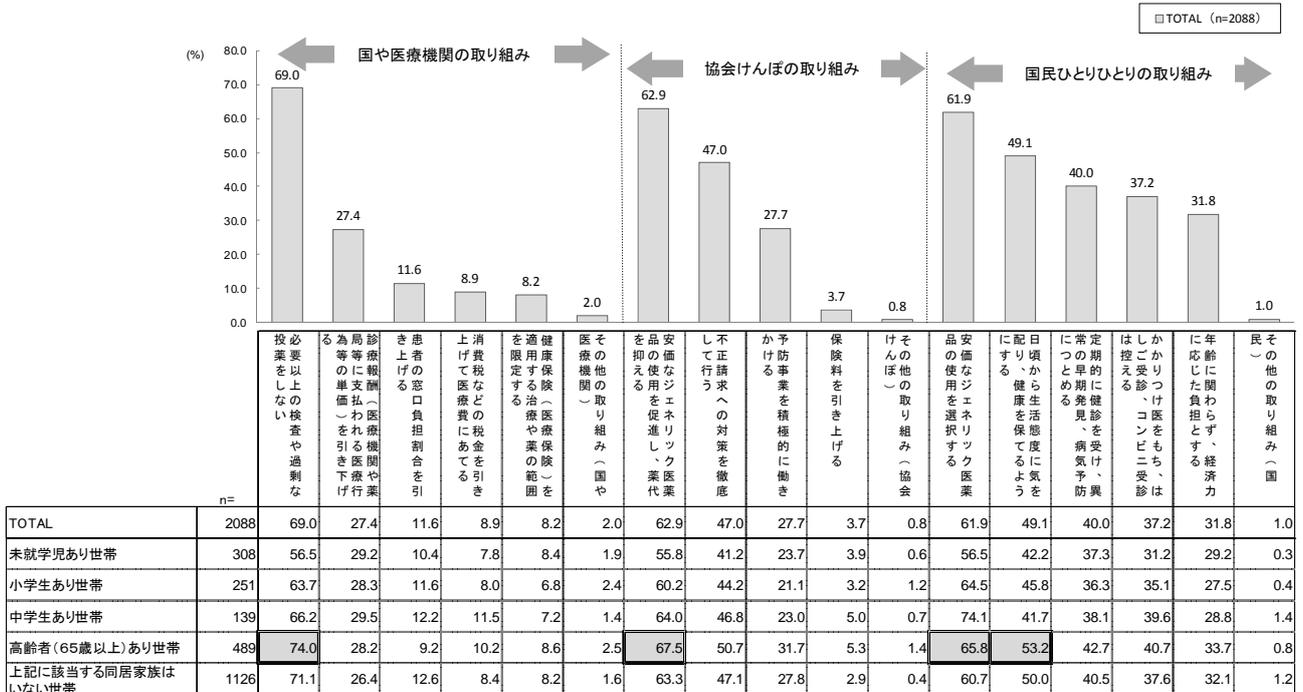
問 18 医療費の伸びを抑えるために必要な取り組み（複数回答）



	n=	必要以上の検査や過剰な投薬をしない	診療報酬（医療機関や薬局等に支払われる単価）を引き下げる	患者の窓口負担割合を引き上げる	消費税などの税金を引き上げて医療費にあてる	健康保険（医療保険）を適用する治療や薬の範囲を限定する	その他の取り組み（国や医療機関）	安価なジェネリック医薬品の使用を促進し、薬代を抑える	不正請求への対策を徹底して行う	予防事業を積極的に働きかける	保険料を引き上げる	その他の取り組み（協会けんぽ）	安価なジェネリック医薬品の使用を選択する	日頃から生活態度に気を配り、健康を保てるようにする	定期的な健康診断を受け、予防につとめる	かかりつけ医をもち、診ははしこる	年齢に関わらず、経済力に応じた負担とする	その他の取り組み（国民ひとりひとり）
TOTAL	2088	69.0	27.4	11.6	8.9	8.2	2.0	62.9	47.0	27.7	3.7	0.8	61.9	49.1	40.0	37.2	31.8	1.0
今年1月～6月の間に病院・診療所を受診していない	823	66.6	23.5	11.3	7.9	8.6	1.8	57.7	42.9	24.1	3.3	0.6	58.0	40.3	31.3	29.5	28.9	0.9
病院・診療所受診月数 1ヶ月	498	66.7	28.3	12.4	9.0	6.8	1.8	58.8	44.8	26.5	4.2	1.2	57.8	49.4	41.2	34.9	31.9	1.0
病院・診療所受診月数 2ヶ月	180	69.4	35.6	13.3	8.3	9.4	0.6	71.1	47.8	30.0	5.6	1.1	67.2	55.6	50.6	38.3	34.4	0.0
病院・診療所受診月数 3ヶ月	122	73.0	32.0	9.8	8.2	13.1	2.5	73.0	54.1	38.5	3.3	0.8	69.7	67.2	54.9	48.4	36.1	1.6
病院・診療所受診月数 4ヶ月	66	75.8	30.3	12.1	7.6	3.0	4.5	74.2	48.5	31.8	0.0	1.5	68.2	56.1	42.4	45.5	34.8	0.0
病院・診療所受診月数 5ヶ月	56	76.8	19.6	8.9	10.7	8.9	3.6	71.4	53.6	30.4	5.4	1.8	69.6	60.7	48.2	57.1	35.7	3.6
病院・診療所受診月数 6ヶ月	343	73.8	30.6	11.4	11.7	7.9	2.6	70.0	55.7	31.8	3.8	0.3	69.4	56.9	46.6	49.6	34.1	1.2

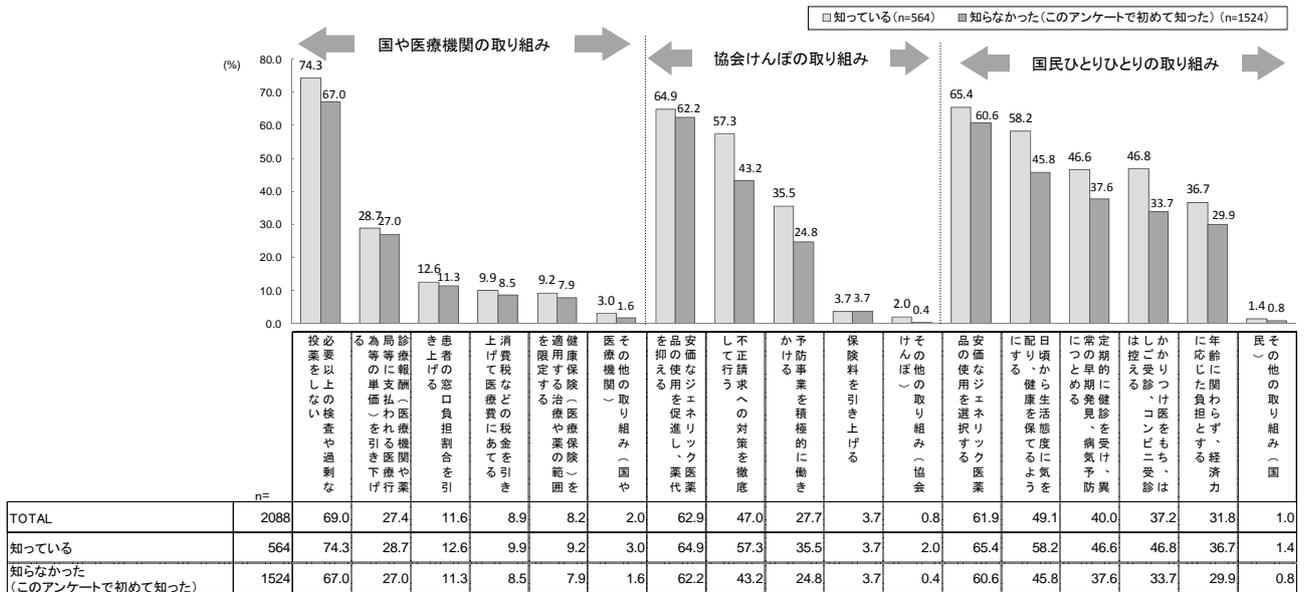
同居家族別に見ると、「高齢者（65歳以上）あり世帯」では、「必要以上の検査や過剰な投薬をしない」（74.0%）、「安価なジェネリック医薬品の使用を促進し、薬代を抑える」（67.5%）、「安価なジェネリック医薬品の使用を選択する」（65.8%）、「日頃から生活態度に気を配り、健康を保てるようにする」（53.2%）といった取り組みが必要と考える割合が他より高い。これに対し、「未就学児あり世帯」ではこれらの取り組みを必要と考える割合が最も低くなっている。

問 18 医療費の伸びを抑えるために必要な取り組み（複数回答）



加入している健康保険によって保険料率が異なることの認知状況別に見ると、いずれの取り組みについても、「知っている」人の方が必要だと考える割合が高い。特に、「不正請求への対策を徹底して行う」、「日頃から生活態度に気を配り、健康を保てるようにする」、「かかりつけ医をもち、はしご受診、コンビニ受診は控える」の3項目では、10ポイント以上の差が見られる。

問18 医療費の伸びを抑えるために必要な取り組み（複数回答）

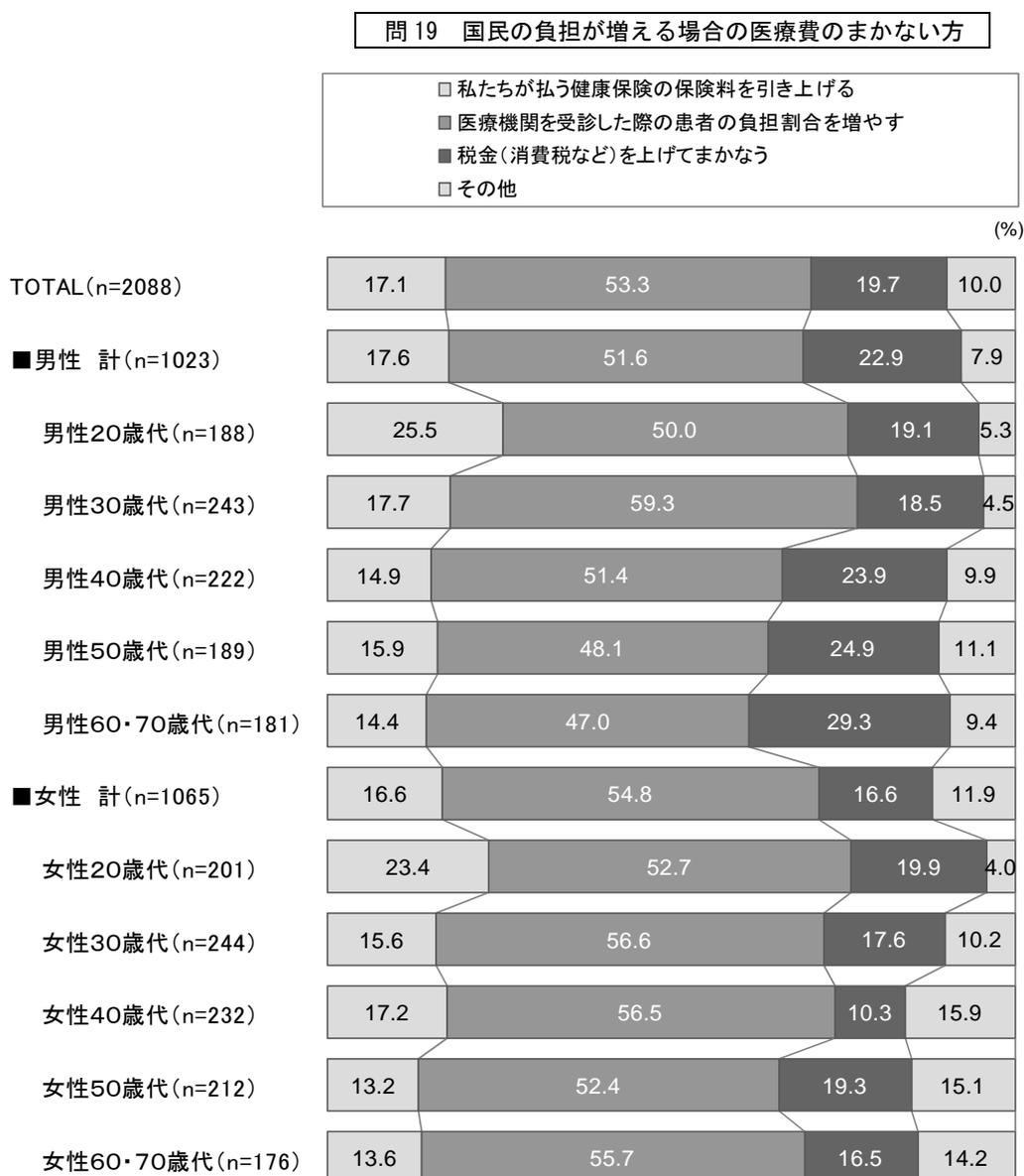


3. 4. 2 国民の負担が増える場合の医療費のまかない方（問19）

問19 増え続ける医療費に対して、今後も何らかの方法でまかなっていく必要があります。国民の負担が増えるとした場合、あなたはどの方法を最優先に実施して医療費をまかなっていくのが適切だと思いますか。（回答は1つ）

医療費が増え続けることによって国民の負担が増える場合、最も適切な医療費のまかない方としては、「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」が53.3%と過半数を占めており、「税金（消費税など）を上げてまかなう」が19.7%、「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」が17.1%である。

性・年代別に見ると、男女ともに20歳代では「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」が2割強と他の年代より高い。一方、男性50歳代以上では「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」が半数を下回り、「税金（消費税など）を上げてまかなう」が3割弱となっている。

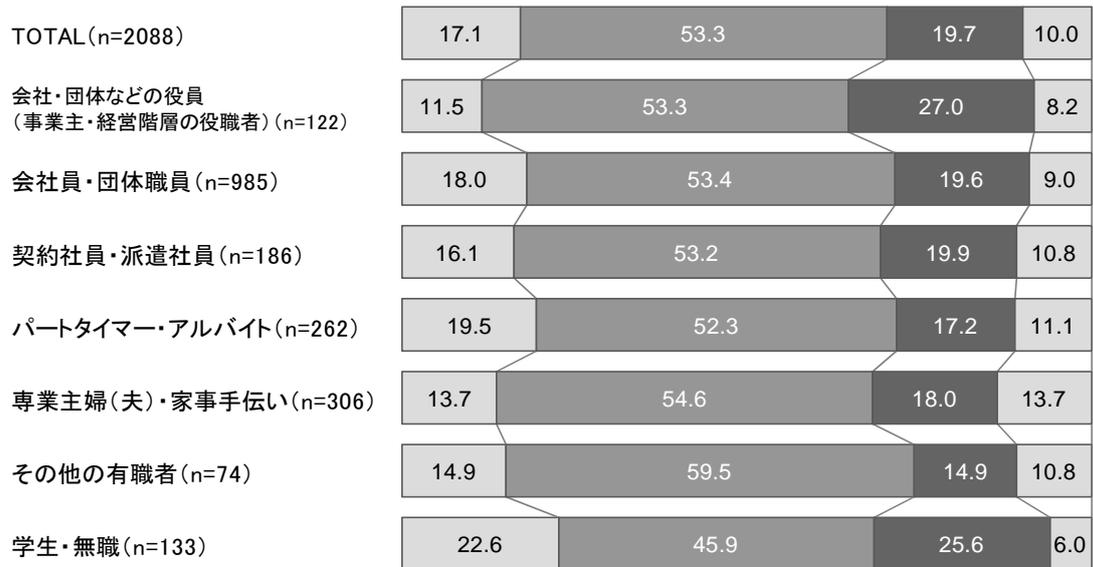


職業別に見ると、「会社・団体などの役員（事業主・経営階層の役職者）」では「税金（消費税）などを上げてまかなう」が3割弱（27.0%）と、他の職業より高い割合である。

問 19 国民の負担が増える場合の医療費のまかない方

- 私たちが払う健康保険の保険料を上げる
- 医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす
- 税金（消費税など）を上げてまかなう
- その他

(%)

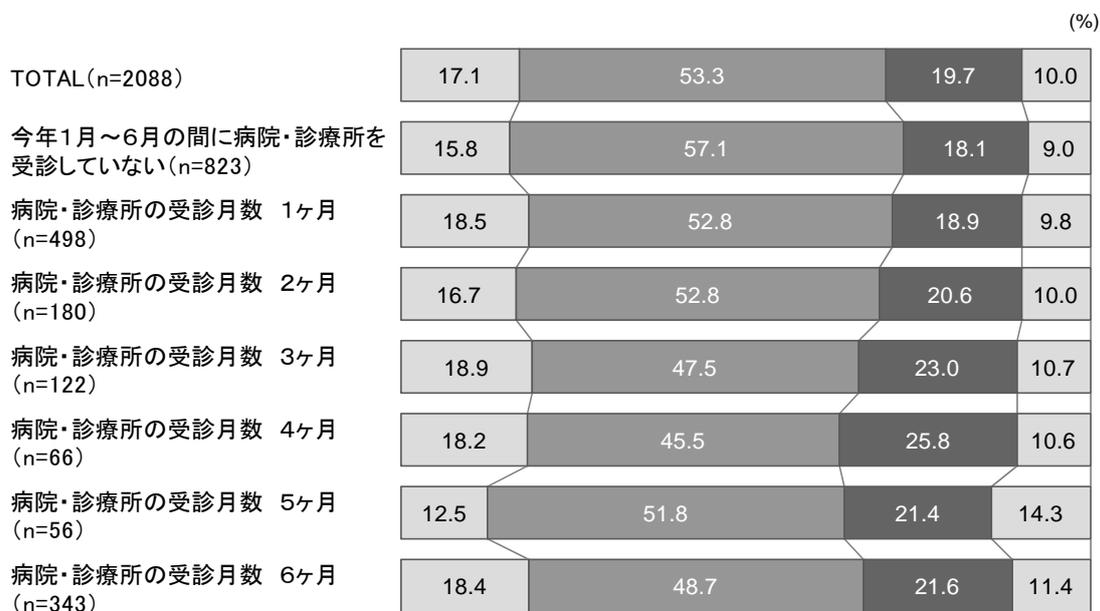


※n>30の結果のみ表示

今年1月～6月の病院・診療所受診状況別に見ると、受診していない人では「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」が6割弱（57.1%）と、受診者より高い割合である。

問 19 国民の負担が増える場合の医療費のまかない方

- 私たちが払う健康保険の保険料を上げる
- 医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす
- 税金(消費税など)を上げてまかなう
- その他



(参考) 過去調査の類似設問の結果

※2009～2013年は複数回答形式で聴取し、2014年は単数回答形式で聴取しているため、単純比較はできない。

	n=	私たちが払う健康保険の保険料を上げる	医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす	税金(消費税など)を上げてまかなう	その他
2009年	2,454	22.6	40.0	36.2	16.7
2011年	2,113	21.1	46.4	26.9	18.4
2013年	2,268	19.8	54.1	<b>25.0</b>	15.6

2014年4月 消費税5%→8%に

2014年	2,088	17.1	53.3	<b>19.7</b>	10.0
-------	-------	------	------	-------------	------



## 資料編 《調査票》





問 11【問 9 で “2” の人（協会けんぽ加入者）に】あなたが加入している協会けんぽの支部はどちらですか。

※必ず健康保険証を確認のうえ、お答えください。（回答は1つ）

1	北海道支部	17	石川支部	33	岡山支部
2	青森支部	18	福井支部	34	広島支部
3	岩手支部	19	山梨支部	35	山口支部
4	宮城支部	20	長野支部	36	徳島支部
5	秋田支部	21	岐阜支部	37	香川支部
6	山形支部	22	静岡支部	38	愛媛支部
7	福島支部	23	愛知支部	39	高知支部
8	茨城支部	24	三重支部	40	福岡支部
9	栃木支部	25	滋賀支部	41	佐賀支部
10	群馬支部	26	京都支部	42	長崎支部
11	埼玉支部	27	大阪支部	43	熊本支部
12	千葉支部	28	兵庫支部	44	大分支部
13	東京支部	29	奈良支部	45	宮崎支部
14	神奈川支部	30	和歌山支部	46	鹿児島支部
15	新潟支部	31	鳥取支部	47	沖縄支部
16	富山支部	32	島根支部		

問 12【問 10 で “1” の人（協会けんぽ加入者（被保険者本人）に】

あなたが被保険者として協会けんぽに加入している期間（年数）をお答えください。（回答は1つ）

※政管健保（政府管掌健康保険）に加入していた期間がある方は、政管健保からの通算期間（年数）をお答えください。

1	1年未満	5	10～15年未満
2	1～3年未満	6	15～20年未満
3	3～5年未満	7	20年以上
4	5～10年未満	8	わからない

## 医療と健康保険制度等に関する調査

### 【導入】

＜今年1月～6月のあなたの医療機関受診状況についてうかがいます。＞

問1【全員に】今年1月～6月の間に、あなたは医療機関を受診したり、薬局で調剤（処方せんで薬を処方してもらったこと）を受けたりしましたか。受診や調剤を受けた方は、その月をすべてお答えください。

（回答は該当するものすべて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	今年1月～6月の間には、医療機関での受診や薬局での調剤を受けていない
病院・診療所（歯科以外）を受診した	1	2	3	4	5	6	7
歯科を受診した	1	2	3	4	5	6	7
薬局で調剤を受けた	1	2	3	4	5	6	7

＜今年1～3月、4～6月の両方で医療機関を受診したり、薬局で調剤を受けたりした方にうかがいます。＞

問2【今年1～3月、4～6月の両方で医療機関を受診・または薬局で調剤を受けた人に】

消費税増税に伴い、今年の4月1日から診療報酬（治療や検査など医療行為等の単価）も改定されました。受診する際の初診料や再診料などが引き上げられています。

今年4月以降の医療費の支払いは、3月以前と比較してどの程度負担を感じますか。（回答は1つ）

負担を感じる	←	どちらともいえない	→	負担を感じない
1	2	3	4	5

問3【全員に】あなたはこの1年間に、協会けんぽと次のような接点を持ったことがありますか。

（回答は該当するものすべて）

1	協会けんぽの窓口で、手続きや相談に行った
2	協会けんぽに問い合わせや相談の電話をした
3	協会けんぽのホームページを見た
4	協会けんぽ（支部）のメールマガジン登録をした
5	協会けんぽの健診を受けた
6	協会けんぽの保健師から保健指導を受けた
7	任意継続加入に関する手続きをした
8	高額療養費の給付を受けた
9	傷病手当金の給付を受けた
10	出産育児一時金の給付を受けた
11	その他（ <span style="float: right;">）</span>
12	接点を持ったことはない

<ここからは、協会けんぽが行っている取り組みについてうかがいます。>

問 4【全員に】協会けんぽでは以下のような取り組みを行っています。次の中で、あなたがこれまでに見たり、聞いたりしたことがある言葉はありますか。(回答は該当するものすべて)

- 1 ジェネリック医薬品の使用促進
- 2 扶養家族の確認
- 3 資格喪失者の保険証の回収
- 4 保健指導の実施
- 5 医療費の不正請求の対策（傷病手当金・出産手当金や整骨院での施術など）
- 6 レセプトの点検
- 7 健康診断やレセプトのデータ分析による生活習慣病重症化予防
- 8 この中に見たり聞いたりしたことがある言葉はない

### 【ジェネリック医薬品の使用促進】

問 5【全員に】あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）をご存知ですか。次の説明をお読みのうえ、お答えください。(回答は1つ)

#### ○ジェネリック医薬品（後発医薬品）

ジェネリック医薬品は、有効性や安全性が実証されてきた先発医薬品（最初に開発された医薬品、新薬）の効能と「同等」と厚生労働省において認められた医薬品です。ジェネリック医薬品は先発医薬品のノウハウを活用することにより開発費が抑えられるため、価格も安く、薬代の軽減や保険料負担の低減につながります。

平成 20 年 4 月から処方せんの様式が変わり、「ジェネリック医薬品への変更不可」という欄に医師の署名がない限り、薬局では患者の選択に基づきジェネリック医薬品への変更調剤が可能となりました。

※ただし、すべての薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。

※薬局に在庫がない場合など、ジェネリック医薬品に切り替えられない場合もあります。

- 1 ジェネリック医薬品を使ったことがある
- 2 ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない
- 3 名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった
- 4 今回はじめて名前を聞いた

<「ジェネリック医薬品」をご存知の方にはうかがいます。>

問 6【問 5 で 1, 2（どういうものか知っている）人に】

「ジェネリック医薬品」がどういうものかを知ったきっかけは何ですか。(回答は該当するものすべて)

- 1 医師・医療機関からの説明や勧めを受けた
- 2 薬剤師・薬局からの説明や勧めを受けた
- 3 雑誌や新聞の記事で見た
- 4 テレビ番組やCMで見た
- 5 インターネットの情報サイト等で見た
- 6 協会けんぽからのお知らせを見た
- 7 家族や知人から聞いた（または家族や知人が使用していた）
- 8 その他（ )
- 9 わからない・覚えていない

<次の説明をお読みのうえ、お答えください。>

問7【全員に】

ジェネリック医薬品は、先発医薬品（最初に開発された医薬品、新薬）と効能が同等である一方、価格が安く抑えられるため、個人にとっては家計の負担が軽減され、国全体としても医療費の抑制が期待できます。協会けんぽでは「ジェネリック医薬品軽減額通知」を加入者に送り、ジェネリック医薬品への切り替えを促した結果、これまでに約227億円の財政効果がありました。

この取り組みについて、あなたはどのように感じますか。（回答は1つ）

- 1 よいと思う
- 2 どちらともいえない
- 3 よくないと思う

問8【全員に】今後あなたがジェネリック医薬品への切り替えを促す通知を受け取ったとしたら、先発医薬品とジェネリック医薬品のどちらを選択すると思いますか。（回答は1つ）

- 1 既にできるだけジェネリック医薬品を選ぶようにしており、今後もジェネリック医薬品を選ぶと思う
- 2 今後通知を受け取ったら、できるだけジェネリック医薬品を選ぶようにすると思う
- 3 通知を受け取っても、ジェネリック医薬品は選ばないと思う
- 4 わからない

#### 【健康維持・疾病予防】

<次の説明をお読みのうえ、お答えください。>

問9【全員に】

高血圧症などの生活習慣病の要因となる「メタボリック・シンドローム」に該当する方は、他の危険因子が重なると、自覚症状がなくても、心筋梗塞や脳卒中、あるいは糖尿病の合併症から人工透析が必要になるといった非常に重い病気になるリスクが高まります。

#### ○メタボリック・シンドローム

メタボリック・シンドロームとは、内臓脂肪型肥満の人が、脂質代謝異常（血液中にコレステロールや中性脂肪が増える状態）、高血圧、高血糖といった動脈硬化の危険因子を2つ以上あわせ持った状態をいいます。

こういった疾患の予防・改善、または健康維持のために、あなたは日ごろからどのような取り組みを行っていますか。（回答は該当するものすべて）

- 1 野菜を多くとるなどバランスのよい食事と節制を心がけている
- 2 特別な運動はしていないが、日常生活の中で意識して歩く距離を多くするなど体を動かしている
- 3 定期的に運動している
- 4 喫煙を控えている
- 5 アルコールを控えている
- 6 日常的に体重や血圧等の測定を心がけている
- 7 現在、病院で生活習慣病の治療や指導を受けている
- 8 その他（ )
- 9 特に何もしていない







問 19【全員に】 増え続ける医療費に対して、今後も何らかの方法でまかなっていく必要があります。国民の負担が増えるとした場合、あなたはどの方法を最優先に実施して医療費をまかなっていくのが適切だと思いますか。(回答は1つ)

- |                          |
|--------------------------|
| 1 私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる   |
| 2 医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす |
| 3 税金(消費税など)を上げてまかなう      |
| 4 その他( )                 |

<基本属性>

問 20【全員に】 あなたの性別をお答えください。

- |      |      |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問 21【全員に】 あなたの年齢をお答えください。

	歳
--	---

問 22【全員に】 あなた以外に、同居するご家族に次のような方はいらっしゃいますか。

(回答は該当するものすべて)

- |                    |
|--------------------|
| 1 未就学児(義務教育就学前)    |
| 2 小学生              |
| 3 中学生              |
| 4 65歳以上の人          |
| 5 これらに該当する同居家族はいない |